

○ 第 2 章 仮 設 工 事

項 目	特 記 事 項							
▷ 1. 監督員事務所及び備品等	(1) 監督員事務所 ○ 設ける * 設けない ( ○ 10㎡ ○ 20㎡ ○ 35㎡ ○ 65㎡ ○ 100㎡ ) 程度							
▷ 2. 工事用水	(2) 備品等は工事監督員との協議による。 構内既存の施設 ○ 利用できる ( * 有償 ○ 無償 ) * 利用できない							
▷ 3. 工事用電力	構内既存の施設 ○ 利用できる ( * 有償 ○ 無償 ) * 利用できない							
▷ 4. 指定仮設	仮設計画図による。							
▷ 5. 足場	足場を設ける場合には、「手すり先行工法に関するガイドライン」について（厚生労働省平成21年4月策定）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、すべての作業床について手すり、中さん及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。							
▷ 6. 交通誘導警備員	建設機械及び車両等の出入りの際には、出入口に交通誘導警備員を配置し、一般通行者及び一般車両の安全を確保すること。 なお、配置位置及び交通誘導警備員の区分は、次による。 配置位置：図面による。 警備員詰所：( ○ 設ける ○ 設けない ) 表 工事現場の位置と交通誘導警備員区分 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">工事現場の出入り口を設ける道路（路線）</th> <th>交通誘導警備員区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市街地（DID）内の路線</td> <td rowspan="2">交通誘導警備員A</td> </tr> <tr> <td>北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線</td> </tr> <tr> <td>上記以外の路線</td> <td>交通誘導警備員B</td> </tr> </tbody> </table> <p>市街地内の路線及び認定路線の場合は、交通誘導警備業務を行う場所ごとに交通誘導警備員Aを1人以上配置する。 交通誘導警備員Aを配置できない場合で、やむを得ず受注者自らが交通誘導を行う場合は、工事監督員と協議すること。</p>	工事現場の出入り口を設ける道路（路線）	交通誘導警備員区分	市街地（DID）内の路線	交通誘導警備員A	北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線	上記以外の路線	交通誘導警備員B
工事現場の出入り口を設ける道路（路線）	交通誘導警備員区分							
市街地（DID）内の路線	交通誘導警備員A							
北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線								
上記以外の路線	交通誘導警備員B							

○ 第 3 章 土 工 事

項 目	特 記 事 項
▷ 1. 埋戻し及び盛土	○ A種 * B種 ○ C種 ○ D種 (3.2.3) (表3.2.1) C種の場合（建設発生土受入量： _____ ㎡ （発生場所： _____）
▷ 2. 建設発生土等の処理	○ 場外搬出（約 _____ km (3.2.5) （捨て場所住所： _____） （管理者： _____） 捨て土均し（ ○ 有り ○ 無し ）
▷ 3. 山留め壁等	○ 構内敷均し ○ 構内指示の場所に堆積（図示による） ○ 工法その他： _____ (3.3.3) * 存置しない ○ 存置する ○ 山留め鋼材抜き跡の処理 * 砂充填 ○ _____

○ 第 4 章 地 業 工 事

項 目	特 記 事 項																
▷ 1. 試験杭	(1) 試験杭の位置・数量は、杭伏図等による。 (4.2.2) (2) 元請建設業者及び基礎杭工事の施工体制に係る全ての下請業者の主任技術者が立ち会うこと。 (3) 電流値の変化、根固め液の調合及び注入量、付着している土砂、支持層等の位置等について確認すること。 (4) 元請建設業者は、試験杭の結果を基に、本杭の施工における孔径、掘削深さ、建込み中の鉛直度、高止まり量、セメントミルク量、施工時間等の管理基準値を定めること。 杭の種類・断面・長さは本杭と同じとする。																
▷ 2. 工事監督員の立会い	(1) 工事監督員が立会いする杭は次による。 ● 試験杭 ○ 地盤の状態等を踏まえ、発注者と受注者が協議して定める杭																
▷ 3. 杭の載荷試験	* 行わない ○ 行う (4.2.3) (1) 試験の種類 ( ○ 鉛直載荷試験 ○ 水平載荷試験 ) (2) 試験の方法 _____ (3) 試験箇所 _____																
▷ 4. 地盤の載荷試験	* 行わない ○ 行う (4.2.4) (1) 試験の種類 ( * 平板載荷試験 ) (2) 試験の方法 _____ (3) 試験箇所 _____																
▷ 5. 既製コンクリート杭地業	(1) 本杭の位置・数量・種別・断面・長さ及び長期設計支持力は、杭伏図等による。 (2) 本工事に使用する杭の種類等は、次による。 (4.3.3) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">該当</th> <th style="width: 30%;">種類の記号</th> <th style="width: 40%;">種類</th> <th style="width: 20%;">区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> (3) 施工方法 ○ セメントミルク工法 (支持地盤は図面による) (4.3.4) ○ 特定埋込杭工法 (支持地盤は図面による) (4.3.5) ○ プレボーリング拡大根固工法 (杭周固定液 ○ 使用する ○ 使用しない) ○ _____ ○ _____ (杭の水平方向の位置ずれは、 mm以下とする。) (ずれが、 mmを超えた場合は、工事監督員の指示を受けること。) ○ 継手 (4.3.6) ○ アーク溶接 ○ 機械式継手 工法 : _____ (4) 杭頭の処理 (4.3.8) ○ 処理しない ○ 処理する 処理方法 (切断を伴う補強方法含む) : * 図示による ○ _____ (5) 施工にあたって、次に掲げる事項について工事監督員の承諾を受けること。	該当	種類の記号	種類	区分	○				○				○			
該当	種類の記号	種類	区分														
○																	
○																	
○																	

	7. 施工体制
	(7) 下請業者の体制（やむを得ずアナログ式電流計を使用する場合は、必ず電流計の動作確認や記録紙の保管を行う専属の担当者を配置する。）
	(4) トラブル時の連絡体制
	イ. 施工方法
	(7) 元請建設業者の立ち会い
	(4) 電流計データの取得方法（積分電流計）
	(ウ) 支持層等到達の判断方法
	(エ) トラブル時の対処方法
	(オ) 施工状況の報告
	(6) 施工状況の報告時期、報告内容及び報告方法は、工事監督員の指示による。
▷ 6. 鋼杭地業	(1) 本杭の位置・数量・種別・断面・長さ及び長期設計支持力は、杭伏図等による。
	(2) 施工方法 (4. 3. 5) (4. 4. 4)
	○ 特定埋込杭工法
	○
	(3) 杭の継手の工法 (4. 4. 3) (4. 4. 5) (7. 2. 5)
	○ アーク溶接継手
	溶接材料： * 標準仕様書7. 2. 5(1) (2)による
	○
	○ 機械式継手
	(4) 杭頭の処理 (4. 3. 8) (4. 4. 6)
	○ 処理しない
	○ 処理する
	処理方法（切断を伴う補強方法含む）：
	* 図示による ○ _____
▷ 7. 場所打ちコンクリート杭地業	(1) セメントの種類 (4. 5. 4)
	* 高炉セメントB種 ○ _____
	(2) コンクリートの種別 ○ A種 ○ B種 (4. 5. 4) (表4. 5. 1)
	(3) 設計基準強度 _____ N/mm <sup>2</sup> (4. 5. 4)
	(4) 掘削工法（支持地盤は図面による） (4. 5. 5)
	○ アースドリル工法 (4. 5. 5)
	（安定液 * 使用する ○ 使用しない） (4. 5. 5)
	○ リバース工法 (4. 5. 5)
	○ オールケーシング工法 (4. 5. 5)
	（孔内の水張 * 行う ○ 行わない）
	○ _____
	(5) 孔壁測定
	○ 行う（○ 超音波測定器 ○ _____）
	○ 行わない
▷ 8. 砂利地業	(1) 材料 (4. 6. 2)
	○ 再生クラッシュラン ○ 切込砂利 ○ 切込碎石
	(2) 粒度 C-40程度
	(3) 砂利地業の厚さ * 60mm ○ _____ mm (4. 6. 3)
▷ 9. 砂地業	(1) 材料 (4. 6. 2)
	○ 山砂 ○ 川砂 ○ 砕砂
	(2) 砂地業の厚さ * 60mm ○ _____ mm (4. 6. 3)
	* 適用する（範囲は図示による） (4. 6. 5)
▷ 10. 床下防湿層	
▷ 11. 捨コンクリート地業	(1) コンクリートの厚さ * 50mm ○ _____ mm (4. 6. 4)
	(2) コンクリートの種別は6章14節「無筋コンクリート」による。

○ 第 5 章 鉄 筋 工 事

項 目	特 記 事 項																
▷ 1. 鉄筋の種類	鉄筋の規格 (5. 2. 1) * JIS G 3112規格品 ○ 建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたせん断補強筋 鉄筋の種類の記事号 ○ SD 2 9 5 (D _____ ~ D _____) ○ SD 3 4 5 (D _____ ~ D _____) ○ SD _____ (D _____ ~ D _____)																
▷ 2. 溶接金網	網目形状及び寸法 * 100×100mm ○ _____ (5. 2. 2) 鉄線の径 * 6mm ○ _____																
▷ 3. 鉄筋の継手及び定着	(1) 鉄筋の継手の方法等 (5. 3. 4) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">部位</th> <th style="text-align: center;">継手の方法</th> <th style="text-align: center;">呼び径 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">柱及び梁主筋</td> <td>○ ガス圧接 ○ 機械式継手</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 溶接継手 ○ 重ね継手</td> </tr> <tr> <td>耐力壁の鉄筋</td> <td>○ 重ね継手 ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎、耐圧スラブ、土圧壁</td> <td>○ 重ね継手 ○ ガス圧接</td> <td></td> </tr> <tr> <td>上記以外 ( _____ )</td> <td>○ 重ね継手 ○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> (2) 鉄筋の継手の位置:構造図面による (5. 3. 4) (3) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ: (5. 3. 4) * 図示 ○ _____ (4) 鉄筋の定着の長さ: (5. 3. 4) * 図示 ○ _____	部位	継手の方法	呼び径 (mm)	柱及び梁主筋	○ ガス圧接 ○ 機械式継手		○ 溶接継手 ○ 重ね継手	耐力壁の鉄筋	○ 重ね継手 ○		基礎、耐圧スラブ、土圧壁	○ 重ね継手 ○ ガス圧接		上記以外 ( _____ )	○ 重ね継手 ○	
部位	継手の方法	呼び径 (mm)															
柱及び梁主筋	○ ガス圧接 ○ 機械式継手																
	○ 溶接継手 ○ 重ね継手																
耐力壁の鉄筋	○ 重ね継手 ○																
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	○ 重ね継手 ○ ガス圧接																
上記以外 ( _____ )	○ 重ね継手 ○																
▷ 4. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	(1) 軽量コンクリートで土に接する部分 (5. 3. 5) ○ なし ○ 有り 適用箇所 _____ 最小かぶり厚さに加える厚さ _____ mm (2) 耐久性上不利な部分 (塩害等を受けるおそれのある部分等) ○ なし ○ 有り 適用箇所 _____ (5. 3. 5) 最小かぶり厚さに加える厚さ _____ mm (3) 鉄筋相互のあき (機械式継手及び溶接継手の場合) (5. 5. 3) (5. 6. 3) * 図示 ○ _____																
▷ 5. 機械式継手	(1) 機械式継手の種類及び工法 (5. 5. 3) ○ _____ (2) 品質の確認方法 (5. 5. 5) * 図示 ○ _____ (3) 不良となった継手の修正方法等 (5. 5. 5) * 図示 ○ _____																
▷ 6. 溶接継手	(1) 溶接継手の工法 (5. 6. 3) ○ _____ (2) 品質の確認方法 (5. 6. 5) * 図示 ○ _____ (3) 不良となった継手の修正方法等 (5. 6. 5) * 図示 ○ _____																
▷ 7. 既製コンクリート杭の杭頭補強	* 構造図面による。																
▷ 8. 補強筋	(1) 壁開口部 * 構造図面による。 (2) 床開口部 * 構造図面による。																

▷ 9. 圧接完了後の試験	(3) 梁貫通孔 * 構造図面による ○ 建設技術評審査証明を取得したもの (4) その他           * 構造図面による。 * 超音波探傷試験      ○ 引張試験 (5. 4. 10)
---------------	---

○ 第 6 章    コンクリート工事

項 目	特 記 事 項
▷ 1. コンクリートの種類	(1) コンクリートの種類 (6. 2. 1) (表6. 2. 1) * I類      ○ II類 ※ JIS認定表示工場で、かつ、(社)コンクリート工学協会から認定されたコンクリート主任技士又はコンクリート技士あるいはこれらと同等以上の技術者が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場（全国品質管理監査会議の策定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場等）から選定することとし、これにより難しい場合は工事監督員と協議すること。 (2) 気乾単位容積質量による種類 (6. 2. 1) * 普通コンクリート      ○ 軽量コンクリート (3) 建築基準法第37条第二号の規定に基づき国土交通大臣の認定を受けたコンクリート (6. 2. 1) ○ _____
▷ 2. コンクリートの強度	(1) 設計基準強度 $F_c$ (N/mm <sup>2</sup> ) の値は次のとおりとする。 (6. 2. 2) ○ 18 N/mm <sup>2</sup> 施工部位: _____ ○ 21 N/mm <sup>2</sup> 施工部位: _____ * 24 N/mm <sup>2</sup> 施工部位: _____ ○ ____ N/mm <sup>2</sup> 施工部位: _____ (2) 調合管理強度及び調合強度 (6. 3. 2) * 標準仕様書6. 3. 2による (3) スランプ (6. 2. 4) (表6. 2. 2) 基礎、基礎梁、土間スラブ * 15 cm      ○ 18 cm 柱、梁、スラブ、壁       * 18 cm (4) 住棟部分のコンクリートの水セメント比は、50%以下とすること。 (住宅性能評価 劣化対策等級 (構造躯体等) 等級3)
▷ 3. 構造体コンクリートの仕上り	(1) コンクリート表面の仕上がり状態 (6. 2. 5) (表6. 2. 4) ○ A種      ○ B種      ○ C種 (2) コンクリートの仕上りの平たんさ (6. 2. 5) (表6. 2. 5) ○ a種      ○ b種      ○ c種
▷ 4. コンクリートの材料	(1) セメント (6. 3. 1) 7. セメント (表6. 3. 1) * 普通ポルトランドセメント ○ セメント名称 _____ 1. 高炉セメントB種及びフライアッシュセメントB種の適用箇所 (6. 3. 1) ○ _____ (2) 骨材 (6. 3. 1) 7. 砂利及び砂のアルカリシカ反応性区分 * A      ○ B 1. 砕石及び砕砂のアルカリシカ反応性区分 * A      ○ B ※ 試験機関は、公的機関又はこれに準ずる機関（大学、都道府県の試験機関、公益法人である民間試験機関、中小企業近代化促進法又は中小企業近代化資金助成法に基づく構造改善計画等によって設立された共同試験場、その他信頼に値する機関）であること。

▷ 5. コンクリートの調合

- (3) 粗骨材の最大寸法 ○ 20mm ○ 25mm ○ 40mm  
 (4) 混和剤  
 7. 混和剤の種類 (6.3.1(4))  
 \* JIS A 6204 AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤  
 化学混和剤の塩化物イオン量による区分 I種  
 ○ その他 ( )  
 (1) 構造体強度補正值 (S) は次による (6.3.2) (表6.3.2)

セメントの種類	コンクリート打込から材齢28日までの期間の 平均気温θの範囲 (°C)	
普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種 フライッシュセメントA種	$0 \leq \theta < 8$	$8 \leq \theta$
早強ポルトランドセメント	$0 \leq \theta < 5$	$5 \leq \theta$
中庸熱ポルトランドセメント	$0 \leq \theta < 11$	$11 \leq \theta$
低熱ポルトランドセメント	$0 \leq \theta < 14$	$14 \leq \theta$
高炉セメント B種	$0 \leq \theta < 13$	$13 \leq \theta$
フライッシュセメント B種	$0 \leq \theta < 9$	$9 \leq \theta$
普通セメント	$0 \leq \theta < 6$	$6 \leq \theta$
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3

▷ 6. 打継ぎ

目地寸法 (6.6.4)

\* 図示 ○ \_\_\_\_\_

▷ 7. 型枠

(1) 型枠一般 (6.8.1)

外部に面するコンクリートの打増し厚さ

\* 図示 ○ \_\_\_\_\_

ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法

\* 図示 ○ \_\_\_\_\_

(2) 材料 (6.8.2)

○ 「コンクリート型枠用合板の規格」による表面加工品

○ 「コンクリート型枠用合板の規格」によるB-C

厚さ \* 12mm ○ \_\_\_\_\_ mm

○ 床型枠用鋼製デッキプレート (6.8.2)

\* 図示 ○ \_\_\_\_\_

(建設技術評価「鉄筋コンクリート建築物等における床型  
枠用鋼製デッキプレートの開発」において評価取得したも  
の)

○ 断熱材兼用型枠材

○ 材種 \_\_\_\_\_ 厚さ \_\_\_\_\_ mm

施工箇所: \_\_\_\_\_

○ ハーフPC床版 施工箇所: \* 図示

○ MCR工法用シート

\* 合成樹脂気泡性緩衝シート

○ \_\_\_\_\_

○ その他 ( )

施工箇所: \* 図示 ○ \_\_\_\_\_

(3) スリーブの材料

\* 材種及び規格は次による (表6.8.1)

材種	規格等	
鋼管	JIS G 3452(配管用炭素鋼鋼管)の白管	
硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K 6741(硬質ポリ塩化ビニル管)のVU	
溶融亜鉛めっき鋼板	径200mm以下	厚 0.4mm以上
	径200mmを超え350mm以下	厚 0.6mm以上
つば付鋼管	JIS G 3452の黒管に厚さ6mm以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの	
紙チューブ	※条件は標準仕様書6.8.2による	

▷ 8. 軽量コンクリート

(1) ○ 適用する 適用箇所 \_\_\_\_\_ (6.10.1)

(2) 種類及び品質

\* 種類及び品質は次による

軽量コンクリートの種類 (表6.10.1)

種類	骨材		気乾単位容積質量の範囲の標準 (t/m <sup>3</sup> )
	細骨材	粗骨材	
1種	砕砂、高炉スラグ細骨材、フェロニッカルスラグ骨材、銅スラグ細骨材、電気炉酸化スラグ細骨材及び砂	人工軽量粗骨材	1.8~2.1
2種	人工軽量細骨材又はこれに1種の細骨材を加えたもの	人工軽量粗骨材	1.4~1.8

(3) スランプ

\* 21cm ○ \_\_\_\_\_ cm

▷ 9. 寒中コンクリート

○ 適用する (6.11.1)

適用期間 年 月 日から  
年 月 日まで

\* 調合管理強度及び調合強度は標準仕様書6.3.2による。

○ 積算温度の適用 \_\_\_\_\_

▷ 10. 暑中コンクリート

(1) 適用 (6.12.1) (6.12.2)

○ 適用する

(2) 構造体強度補正值 (S)

\* 6N/mm<sup>2</sup> ○

▷ 11. マスコンクリート

(1) 適用 (6.13.1)

○ 適用する 適用箇所 \_\_\_\_\_

(2) 構造体強度補正值 (S) は次による (表6.13.1)

セメントの種類	コンクリートの打込から材齢28日までの期間の平均気温θの範囲 (°C)			
	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ	—	暑中期間
普通ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	—
中庸熱ポルトランドセメント	—	—	0 ≤ θ	—
低熱ポルトランドセメント	—	0 ≤ θ	—	暑中期間
高炉セメント B種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間
フライッシュセメント B種	—	0 ≤ θ	—	暑中期間
構造体強度補正值(S) (N/mm <sup>2</sup> )	6	3	0	6

▷ 12. 無筋コンクリート

(1) 適用 (6.14.1)

○ 適用する

(2) コンクリートの種類

\* 普通コンクリート ○ \_\_\_\_\_

(3) 無筋コンクリートの適用

施 工 部 位	設計基準強度 $F_c$ (N/mm <sup>2</sup> )	スランプ(cm)
○ 捨コンクリート	* 18 ○	* 15 ○ 18
○ ラップルコンクリート	* 18 ○	* 15 ○ 18
○ 防水層の保護コンクリート	* 18 ○	* 15 ○ 18
○	* 18 ○	* 15 ○ 18

※ ラップルコンクリートは(6.9.3)コンクリートの強度試験を適用  
○ 適用する (6.15.1)

▷ 13. 流動化コンクリート

○ 第 7 章 鉄 骨 工 事

項 目	特 記 事 項
▷ 1. 鉄骨製作工場	鉄骨加工業者の資格 (7.1.3)

性能評価機関として認定を受けた(株)全国鉄骨評価機構又は(株)日本鉄骨評価センターの「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める次のグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場とする。

○ S ○ H ○ M ○ R ○ J 以上とする

\* 適用する ○ 適用しない (7.1.4)

▷ 2. 施工管理技術者

▷ 3. 鋼材

(1) 鋼材の種類は次による。 (7.2.1) (表7.2.1)

該当	規格番号	規格名称等	種類の記号
○	JIS G 3101	一般構造用圧延鋼材	SS400, SS490, SS540
○	JIS G 3106	溶接構造用圧延鋼材	SM400A, SM400B, SM400C, SM490A, SM490B, SM490C, SM490YA, SM490YB, SM520B, SM520C
○	JIS G 3114	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材	SMA400AW, SMA400AP, SMA400BW, SMA400BP, SMA400CW, SMA400CP, SMA490AW, SMA490AP, SMA490BW, SMA490BP, SMA490CW, SMA490CP
○	JIS G 3136	建築構造用圧延鋼材	SN400A, SN400B, SN400C, SN490B, SN490C
○	JIS G 3138	建築構造用圧延棒鋼	SNR400A, SNR400B, SNR490B
○	JIS G 3350	一般構造用軽量形鋼	SSG400
○	JIS G 3353	一般構造用溶接軽量H形鋼	SWH400
○	JIS G 3444	一般構造用炭素鋼鋼管	STK400, STK490
○	JIS G 3466	一般構造用角形鋼管	STKR400, STKR490
○	JIS G 3475	建築構造用炭素鋼鋼管	STKN400W, STKN400B, STKN490B
○	—	上に掲げるもののほか、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた構造用鋼材又は鋳鋼	—

(2) 板厚方向に引張力を受ける鋼板の試験 (7.2.10)

○ 行う \* 行わない

▷ 4. 高力ボルト

(1) 種類 (7.2.2)

○ トルシア形高力ボルト

JSS II 09により、建築基準法に基づき認定を受けたものとする。

○ J I S 形高力ボルト セットの種類は2種 (F10T) とする。

○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト セットの種類は1種 (F8T) 相当とする。

○ \_\_\_\_\_



(2) ねじの呼び (表7.2.2)

締め付け長さに加える長さ

適用	ねじの呼び	トルシア形高力ボルトの場合 (mm)	JIS形高力ボルト又は 溶融亜鉛めっき高力ボルト (mm)
○	M12	—	25
○	M16	25	30
○	M20	30	35
○	M22	35	40
○	M24	40	45

▷ 5. 普通ボルト

(1) ボルト及びナット材料等 (7.2.3) (表7.2.3)

	ボルト	ナット
規格番号 規格名称	JIS B 1180 (六角ボルト) 付属書JA(規定) [ISO4014~ISO4018, ISO8676及 びISO8765]によらない六角ボルト]	JIS B 1181 (六角ナット) 付属書JA(規定) [ISO4032~ISO4036及び ISO8673~ISO8675]によらない六角ナット]
種類	並形六角ボルト	並形六角ナット
材料区分	鋼製	鋼製
強度区分	4.6又は4.8(JIS B 1051)	5 T (JIS B 1181)
ねじの公差域クラス (JIS B 0205-4及 びJIS B 0209-1)	6 g	6 H
仕上げの程度	中	中

(2) ボルトの形状及び寸法

ねじの呼び (7.2.3)

\* 図示 ○ \_\_\_\_\_ (7.3.2)

(3) 母屋又は胴縁の取り付けに使用するボルトの孔径 (7.3.8)

\* ねじの呼び径+1.0mm

○ \_\_\_\_\_ mm

▷ 6. アンカーボルト

(1) 構造用アンカーボルト (7.2.4)

材質：JIS B 1220 構造用両ねじアンカーボルトセット

種類 \_\_\_\_\_

(2) 建方用アンカーボルト (7.2.4)

材質：JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材

種類 \_\_\_\_\_

(3) 公差域クラス及び仕上げの程度

\* 表7.2.3による

(4) アンカーボルト及びナットの規格、仕上げの程度： (7.2.4)

\* 標準仕様書7.2.3(表7.2.3)による

○ \_\_\_\_\_

(5) ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)

\* 図示 ○ \_\_\_\_\_

(6) アンカーボルトの保持及び埋込み工法： (7.10.3) (表7.10.1)

○ A種 \* B種

▷ 7. 溶接材料

(1) 溶接棒等及びシールドガス以外の溶接材料 \* 図示 (7.2.5)

▷ 8. ターンバックル

ターンバックルボルトの種類 \* 羽子板ボルト ○ (7.2.6)

ターンバックル胴の種類 \* 割枠式 ○

▷ 9. デッキプレート

○ 構造床用デッキプレート (7.2.7)

材質・形状・寸法 \* 図示

○ 合成スラブ用デッキプレート

材質・形状・寸法 \* 図示

○ \_\_\_\_\_

材質・形状・寸法 \* 図示

▷ 10. スタッド	JIS B 1198 (頭付きスタッド) (7.2.8) 種類等 * 図示
▷ 11. 柱底均しモルタル	(1) 無収縮モルタルの材料及び調合 (7.2.9) ア. セメント * 普通ポルトランドセメント又は早強ポルトランドセメント イ. 混和材 * セメント系膨張剤 (酸化カルシウム、カルシウム・サル フォ・アルミネート等)
▷ 12. 材料試験等	(1) 板厚方向に引張り力を受ける鋼板の試験 (7.2.10) ○ 適用 ○ 適用しない
▷ 13. 工作図	(1) ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2) * 図示 ○ (2) 鉄骨の仮組 * 行わない ○ 行う (7.3.10)
▷ 14. 高力ボルト接合	(1) すべり試験: * 行わない ○ 行う (7.4.2) (2) ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合のナット回転量 * 図示 ○ _____ (7.4.7)
▷ 15. 溶接の準備	(1) 開先及びスカーラップの形状: 図示 (7.6.4) (7.6.7) (2) 溶接作業を行う技能資格者 (7.6.3) ア. 溶接作業者の技量付加試験 * 行わない ○ 行う イ. 試験要領 ○ 図示 ○ _____ (7.6.7) (3) 溶接施工 (7.6.7) ア. 鋼製エンドパイプを切断する場合の箇所、切断範囲並びに仕上げ * 図示 ○ _____ イ. 溶接部の試験 超音波探傷試験 * 適用する ○ 適用しない (7.6.12) 溶接部の試験は、技能資格者が行う (7.6.11) ウ. 平均出検品質限界 (AOQL) * 4. 0% (表7.6.2~3) ○ 2. 5% エ. 検査水準 * 第6水準 ○ 第__水準 (7.6.12)
▷ 16. 錆止め塗装	(4) デッキプレートと鉄骨部材の溶接 (7.7.8) * 図示 ○ _____ (1) 塗装の範囲 (7.8.2) 耐火被覆材の接着する面以外への塗装 * 行う 施工部位 * 図示 ○ _____ 塗料の種別 ○ _____ ○ 行わない (2) 塗料種別 (7.8.4) 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたも のの内側 * 標準仕様書18.3.2 表18.3.1 A種 ○ _____
▷ 17. 耐火被覆	(1) 種 別 * 耐火材吹付け ○ 耐火板張り (7.9.2) ○ 耐火材巻付け ○ ラス張りモルタル塗り ○ 耐火塗料等 (2) 種類・材料・工法等 (3) 耐火性能 ○ 30分耐火 ○ 1時間耐火 (7.9.3) ○ _____
▷ 18. 工事現場施工	(1) アンカーボルトの設置 (7.10.3) 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状及び寸法 * 図示 ○ _____

	(2) 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 ○ A種 ○ B種
	(3) 柱底均しモルタル 7. 種別 * A種 ○ B種 (表7.10.2)
	4. 柱底均しモルタルの厚さ ○ 図示 ○ _____
▷ 19. 軽量形鋼	(1) ボルトの接合方法 (7.11.2) * ○ _____
▷ 20. 溶融亜鉛めっき工法	(1) 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合 (7.12.5) 摩擦面のすべり係数値が0.4以上確保できる処理方法 ○ ブラスト処理 ○ リン酸塩処理 ○

○ 第 8 章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

項 目 特 記 事 項

▷ 1. 補強コンクリート ブロック造	(1) 材料 (8.2.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">断面形状及び圧縮強 さによる区分</th> <th rowspan="2">正味厚 さ(mm)</th> <th colspan="2">モジュール呼び 寸法(mm)</th> <th rowspan="2">化粧の有無</th> <th rowspan="2">適用 箇所</th> </tr> <tr> <th>長さ</th> <th>高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 空洞ブロックC(16)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 無 ○ 有</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 無 ○ 有</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	断面形状及び圧縮強 さによる区分	正味厚 さ(mm)	モジュール呼び 寸法(mm)		化粧の有無	適用 箇所	長さ	高さ	○ 空洞ブロックC(16)				○ 無 ○ 有		○				○ 無 ○ 有										
断面形状及び圧縮強 さによる区分	正味厚 さ(mm)			モジュール呼び 寸法(mm)				化粧の有無	適用 箇所																					
		長さ	高さ																											
○ 空洞ブロックC(16)				○ 無 ○ 有																										
○				○ 無 ○ 有																										
	(2) モルタルの調合(容積比) (8.2.3) ブロックの区分がA(08)、B(12)、C(16)の場合で、目地幅が 10mm程度の場合 * 標準仕様書 表8.2.1による 上記以外の場合 ○																													
	(3) 各部の配筋 (8.2.5) ○ 図示 ○																													
	(4) 目地仕上げ ○ 押し目地仕上げ ○ 化粧目地仕上げ (8.2.7)																													
	(5) まぐさを受ける開口部両側のブロックにおいて、モルタル又は コンクリートで充填するブロックの範囲 (8.2.8) * 図示 ○																													
▷ 2. コンクリートブロッ ク帳壁及び塀	(1) 材料 (8.3.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">断面形状及び圧縮強 さによる区分</th> <th rowspan="2">正味厚 さ(mm)</th> <th colspan="2">モジュール呼び 寸法(mm)</th> <th rowspan="2">化粧の有無</th> <th rowspan="2">適用 箇所</th> </tr> <tr> <th>長さ</th> <th>高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>* 空洞ブロックC(16)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 無 ○ 有</td> <td>*表8.3.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○</td> <td>○ 120</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">○ 無 ○ 有</td> <td rowspan="2">* 塀</td> </tr> <tr> <td>○ 150</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○ 無 ○ 有</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	断面形状及び圧縮強 さによる区分	正味厚 さ(mm)	モジュール呼び 寸法(mm)		化粧の有無	適用 箇所	長さ	高さ	* 空洞ブロックC(16)				○ 無 ○ 有	*表8.3.1	○	○ 120			○ 無 ○ 有	* 塀	○ 150			○				○ 無 ○ 有	
断面形状及び圧縮強 さによる区分	正味厚 さ(mm)			モジュール呼び 寸法(mm)				化粧の有無	適用 箇所																					
		長さ	高さ																											
* 空洞ブロックC(16)				○ 無 ○ 有	*表8.3.1																									
○	○ 120			○ 無 ○ 有	* 塀																									
	○ 150																													
○				○ 無 ○ 有																										
	(2) モルタルの調合(容積比) (8.3.3) ブロックの区分がA(08)、B(12)、C(16)の場合で、目地幅が 10mm程度の場合 * 標準仕様書 表8.2.1による 上記以外の場合 ○																													
	(3) 鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 (8.3.4) * 図示 ○																													
	(4) 各部の配筋 (8.3.4) ○ 図示 ○																													

▷ 3. ALCパネル

(1) 材料・構法 (8.4.2~8.4.5) (表8.4.2~表8.4.4)

パネルの区分			単位荷重 (N/m <sup>2</sup> )	耐火性能 (時間)	構法の 種別
用途	形状	表面加工			
○ 外壁用	○ 一般	○ 平		* 有(1) ○	○ A種 ○ B種
	○ コーナ	○ 意匠			
○ 間仕切 壁用	○ 一般	○ 平		○ 有(1) ○ 無 ○	○ C種 ○ D種 ○ E種
	○ コーナ	○ 意匠			
○ 屋根版用	—	—		* 有(0.5)	* F種
○ 床版用	—	—		* 有( ) ○ 無	

厚さ、幅及び長さ(mm)

○ 図示 ○ 厚さ \_\_\_\_\_ mm、幅 \_\_\_\_\_ mm、長さ \_\_\_\_\_ mm

(2) パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 (8.4.2)

○ 図示 ○ \_\_\_\_\_

(3) 外壁パネル構法、屋根及び床パネル工法 (8.4.3) (8.4.5)

耐風圧性能 ( )

耐震性能 ( )

(4) 間仕切壁パネル構法 (8.4.4)

耐震性能 ( )

(5) パネル幅の最小限度 (8.4.3) (8.4.4) (8.4.5)

\* 300mm ○ \_\_\_\_\_ mm ○ 図示

(6) パネル短辺小口相互の接合部、出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の伸縮目地の目地幅 (mm)

(8.4.3) (8.4.4)

\* 10~20mm ○ \_\_\_\_\_ mm ○ 図示

(7) 伸縮目地への耐火目地材の充填 (8.4.3) (8.4.4)

○ 適用する ○ 適用しない

▷ 4. 押出成形セメント板 (ECP)

(1) 材料・構法 (8.5.2~8.5.4) (表8.5.1) (表8.5.2)

パネルの種類	形状	厚さ(mm)	幅	工法の種別
○ 外装パネル	○ F(フラットパネル)	○ 50 ○ 60	600	○ A種 ○ B種
	○ D(デザインパネル)	○ 50 ○ 60		
	○ T(タイルスペースパネル)	○ 60 ○		
○ 間仕切壁パネル	○ F(フラットパネル)	○ 50 ○ 60	600	○ B種 ○ C種
	○ D(デザインパネル)	○ 50 ○ 60		
	○ T(タイルスペースパネル)	○ 60 ○		

(2) 外壁パネル構法 (8.5.3)

耐風圧性能 ( )

耐震性能 ( )

(3) 間仕切壁パネル構法 (8.5.4)

耐震性能 ( )

(4) 耐火構造以外の目地及び隙間の処理 (8.5.3) (8.5.4)

\* パネルの製造所の仕様 ○ \_\_\_\_\_

(5) パネル幅の最小限度(mm) (8.5.3) (8.5.4)

\* 300未満 ○ \_\_\_\_\_ mm ○ 図示

(6) パネル相互の目地幅 (mm) (8.5.3) (8.5.4)

長辺の目地幅 \* 10以上 ○ \_\_\_\_\_ mm ○ 図示

短辺の目地幅 \* 15以上 ○ \_\_\_\_\_ mm ○ 図示

(7) 出隅及び入隅のパネル接合部の伸縮目地の目地幅 (mm)

(8.5.3) (8.5.4)

\* 15程度(シーリング材を充填) ○ \_\_\_\_\_ mm ○ 図示

(8) 溝掘及び開口部の措置 (8.4.3) (8.4.4)  
 やむを得ず設備開口等を設ける場合のパネルの開口寸法等の限度 (8.5.5)  
 図示  \_\_\_\_\_

○ 第 9 章 防 水 工 事

項 目 特 記 事 項  
 ▷ 1. アスファルト防水 屋根保護防水 (9.2.2) (9.2.3) (表9.2.3～表9.2.6)

(1) 防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート
<input type="radio"/> A-1		/	* ポリエチレンフィルム厚さ 0.15mm以上又はフ ラットヤークロス70g/m <sup>2</sup> 程度
<input type="radio"/> A-2			
<input type="radio"/> A-3			
<input type="radio"/> B-1			
<input type="radio"/> B-2			
<input type="radio"/> AI-1			
<input type="radio"/> AI-2		(厚さ)	* フラットヤークロス70g/m <sup>2</sup> 程度
<input type="radio"/> AI-3		<input type="radio"/> _____ mm	
<input type="radio"/> BI-1		<input type="radio"/> _____ mm	
<input type="radio"/> BI-2		<input type="radio"/> _____ mm	
<input type="radio"/> BI-1		<input type="radio"/> _____ mm	
<input type="radio"/> BI-2		<input type="radio"/> _____ mm	

(2) 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.2.2)

標準仕様書表9.2.3及び表9.2.4による

JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ

用途による区分  \_\_\_\_\_

材料構成による区分  R種  N種

厚さ  \_\_\_\_\_ mm以上

(3) 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

標準仕様書表9.2.5及び表9.2.6による (9.2.2)

JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ

用途による区分  \_\_\_\_\_

材料構成による区分  R種  N種

厚さ  \_\_\_\_\_ mm以上

(4) 押え金物の材質及び形状寸法 (9.2.2)

\* アルミニウム製L-30×15×2.0mm程度

\_\_\_\_\_

(5) 立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置

適用する  適用しない

屋根露出防水 (9.2.2) (9.2.3) (表9.2.3～表9.2.6)

(1) 防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	仕上塗材		
			種類	使用量	
<input type="radio"/> D-1		/	○	* 製造所の 仕様によ る	
<input type="radio"/> D-2					
<input type="radio"/> D-3					
<input type="radio"/> D-4				○ (種類)	○
<input type="radio"/> DI-1				<input type="radio"/> _____ mm	
<input type="radio"/> DI-2				<input type="radio"/> _____ mm	

- (2) 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.2.2)  
 標準仕様書表9.2.8による  
 JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ  
 用途による区分 ○ \_\_\_\_\_  
 材料構成による区分 ○ R種 ○ N種  
 厚さ ○ \_\_\_\_\_mm以上
- (3) 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.2.2)  
 標準仕様書表9.2.7及び表9.2.8による  
 JIS A 6013 に基づく種類及び厚さ  
 用途による区分 ○ \_\_\_\_\_  
 材料構成による区分 ○ R種 ○ N種  
 厚さ ○ \_\_\_\_\_mm以上
- (4) 押え金物の材質及び形状寸法 (9.2.2)  
 \* アルミニウム製L-30×15×2.0mm程度  
 ○ \_\_\_\_\_
- (5) 絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び装置数量 (9.2.3)  
 種類 \* アスファルトルーフィング類の製造所の指定  
 ○ \_\_\_\_\_  
 設置数量 \* アスファルトルーフィング類の製造所の指定  
 ○ \_\_\_\_\_個

屋内防水 (9.2.2) (9.2.3) (表9.2.9)

(1) 防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
○ E-1		○ E-2	

(2) 保護層 (9.2.3)

- 設ける ( ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_ )  
 ○ 設けない

(3) E-1の工程3を行う場合の部位 (表9.2.9)

- \* 貯水槽、浴槽等の常時水に接する部位  
 ○ \_\_\_\_\_

施工 (9.2.4)

(1) 防水層の下地のモルタル塗り (9.2.4)

- 適用する ( 施工範囲 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_ )  
 ○ 適用しない

(2) 防水層の下地、立上りコンクリート打放し仕上げ

- \* 標準仕様書表6.2.4のB種  
 ○ \_\_\_\_\_

(3) 屋根露出防水絶縁断熱工法

ルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置

- \* 図示  
 ○ \_\_\_\_\_

(4) 保護層等の施工 (9.2.5)

屋上排水溝の設置

- 設ける (図示) ○ 設けない

▷ 2. 改質アスファルトシート防水

(1) 防水層の種別 (9.3.2) (9.3.3) (表9.3.1~表9.3.3)

種別	施工箇所	断熱材	仕上塗材		
			種類	種類	使用量
○ AS-T1		/	/	○	製造所の仕様による
○ AS-T2					
○ AS-T3					
○ AS-T4					
○ AS-J1		○ (種類)	○ 設ける	○	○
○ ASI-T1		○ mm	○ 設けない		
○ ASI-J1		○ mm			

(2) 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.3.2)

\* 標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による

○ \_\_\_\_\_

(3) 粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.3.2)

\* 標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による

○ \_\_\_\_\_

(4) 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ (9.3.2)

\* 標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による

○ \_\_\_\_\_

(5) 押え金物の材質及び形状寸法 (9.3.2)

\* アルミニウム製L-30×15×2.0mm程度

○ \_\_\_\_\_

(6) 屋根露出防水絶縁工法、屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び装置数量 (9.2.3)

種類 \* 改質アスファルトシートの製造所の指定

○ \_\_\_\_\_

設置数量 \* 改質アスファルトシートの製造所の指定

○ \_\_\_\_\_ 個

▷ 3. 合成高分子系ルーフィングシート防水

(1) 防水層の種別 (9.4.2~9.4.4) (表9.4.1) (表9.4.2)

種別	施工箇所	可塑性移行防止シートの材質	断熱材	歩行の仕様	仕上げ塗装	
					種類	使用量
○ S-F1		/	/	* 非歩行用 ○ 軽歩行用	○	製造所の仕様による
○ S-F2				○ 非歩行用 ○ 軽歩行用		
○ S-M1				* 非歩行用 ○ 軽歩行用	○	製造所の仕様による
○ S-M2				○ 非歩行用 ○ 軽歩行用		
○ SI-F1		/	(種類) ○ (厚さ) ○ mm	/	○	製造所の仕様による
○ SI-F2			○ mm			
○ SI-M1		/	(種類) ○ (厚さ)	/	○	製造所の仕様による

<input type="radio"/> SI-M2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	発泡 ポリ レン シート	<input type="radio"/>	mm	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-----------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	----	-----------------------	-----------------------

(2) 屋内防水層の種別 (9.4.2~9.4.4) (表9.4.3)

種別	施工箇所	保護層		
		平場の珪藻塗り		立上り部の保護
		塗厚(mm)	工法	珪藻塗り厚さ
<input type="radio"/> S-C1	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> 床塗り <input type="radio"/> 下地珪藻塗り	* 7mm以下 <input type="radio"/>

(3) ルーフィングシートの種類及び厚さ (9.4.2)

\* 標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による

(4) 固定金具の材質及び形状 (9.4.2)

材質 \* 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面又は両面に樹脂を積層加工したもの

表面仕上 \*

寸法形状 \* 厚さ0.4mm以上

(5) 接着工法の場合の脱気装置の種類及び装置数量 (9.4.3)

種類 \* ルーフィングシートの製造所の仕様

設置数量 \* ルーフィングシートの製造所の仕様

個

(6) 断熱工法 (SI-M1、SI-M2の場合) の防湿用フィルム (表9.4.2)

設置する  設置しない

(7) 接着工法の場合のPCコンクリート部材防水下地の目地処理 (9.4.4)

行う (  図示  )  行わない

(8) PCコンクリート下地の入隅部の増張り (S-F1、SI-F1の場合) (9.4.4)

行う (  図示  )  行わない

(9) 機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け (9.4.4)

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

\* 図示

▷ 4. 塗膜防水

(1) 防水層の種別 (9.5.3) (表9.5.1) (表9.5.2)

種別	施工箇所	仕上塗材		保護層
		種類	使用量	
<input type="radio"/> X-1		<input type="radio"/>	* 製造所の仕様による <input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/> X-2		<input type="radio"/>	* 製造所の仕様による <input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/> Y-1	<input type="radio"/> 地下街壁防水 <input type="radio"/>			<input type="radio"/>
<input type="radio"/> Y-2	<input type="radio"/> 屋内防水 <input type="radio"/>			<input type="radio"/> <input type="radio"/>

(2) ウレタンゴム系塗膜防水X-1 (絶縁工法) の脱気装置の種類及び装置数量 (9.5.3)

種類 \* 主材料の製造所の仕様

設置数量 \* 主材料の製造所の仕様

個



- ▷ 5. ケイ酸質系塗布防水
  - (1) 防水層の下地（壁及び天井） (9. 6. 4)
    - \* コンクリート打放し仕上げ（標準仕様書 表6. 2. 4のB種）
    - \_\_\_\_\_
  - (2) 下地処理 (9. 6. 4)
    - コンクリートの打継箇所の処理
    - \* 標準仕様書 9. 6. 4(2) (ア)による
    - 標準仕様書 9. 6. 4(2) (イ)及び(ウ)以外の下地処理
    - 図示
- ▷ 6. シーリング
  - (1) 材料 (9. 7. 2)
    - 種類及び施工箇所
    - 下表以外は、標準仕様書 表9. 7. 1による
    - ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）

    - 仕上げを行わない施工箇所 ( )
  - (2) シーリング材の目地寸法 (9. 7. 3)
    - \* 標準仕様書 9. 7. 3(1)による
    - \_\_\_\_\_
  - (3) 接着性試験 (9. 7. 5)
    - \* 簡易接着性試験 ○ 引張接着性試験 ○ \_\_\_\_\_
    - 種類： \_\_\_\_\_ 施工箇所： \_\_\_\_\_
- ▷ 7. その他の防水
- ▷ 8. 保証
  - (1) 防水工事の保証期間 \* 10年
  - \_\_\_\_\_年

○ 第10章 石工事

項 目	特 記 事 項																					
▷ 1. 施工	(1) 石材の割付け (10. 1. 3) <ul style="list-style-type: none"> <li>* 図示 ○ _____</li> </ul>																					
▷ 2. 石材等	(1) 天然石 (10. 2. 1) (表10. 2. 1) (表10. 2. 2) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">施工箇所</th> <th style="width: 15%;">岩石の種類</th> <th style="width: 15%;">形状及び寸法</th> <th style="width: 15%;">表面仕上げの種類</th> <th style="width: 15%;">バフ仕上げの有無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td>○</td> <td>○ 図示</td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法	表面仕上げの種類	バフ仕上げの有無		○	○ 図示													
施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法	表面仕上げの種類	バフ仕上げの有無																		
	○	○ 図示																				
	(2) テラゾブロック (10. 2. 1) (表10. 2. 1) (表10. 2. 2) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">施工箇所</th> <th style="width: 10%;">種石の種類</th> <th style="width: 10%;">形状及び寸法</th> <th style="width: 10%;">形状による区分</th> <th style="width: 10%;">仕上げ面による区分</th> <th style="width: 10%;">寸法</th> <th style="width: 10%;">表面仕上げの種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td>* 大理石</td> <td>* 1.5~12</td> <td>○ 平もの</td> <td>○ 片面</td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td>○ 花こう岩</td> <td>○</td> <td>○ 役もの</td> <td>○ 両面</td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	種石の種類	形状及び寸法	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法	表面仕上げの種類		* 大理石	* 1.5~12	○ 平もの	○ 片面				○ 花こう岩	○	○ 役もの	○ 両面		
施工箇所	種石の種類	形状及び寸法	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法	表面仕上げの種類																
	* 大理石	* 1.5~12	○ 平もの	○ 片面																		
	○ 花こう岩	○	○ 役もの	○ 両面																		
	(3) テラゾタイル (10. 2. 1) (表10. 2. 1) (表10. 2. 2) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">施工箇所</th> <th style="width: 10%;">種石の種類</th> <th style="width: 10%;">形状及び寸法</th> <th style="width: 10%;">形状による区分</th> <th style="width: 10%;">表面仕上げの種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td>* 大理石</td> <td>* 1.5~12</td> <td>○ 300×300</td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td>○ 花こう岩</td> <td>○</td> <td>○ 400×400</td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	種石の種類	形状及び寸法	形状による区分	表面仕上げの種類		* 大理石	* 1.5~12	○ 300×300			○ 花こう岩	○	○ 400×400							
施工箇所	種石の種類	形状及び寸法	形状による区分	表面仕上げの種類																		
	* 大理石	* 1.5~12	○ 300×300																			
	○ 花こう岩	○	○ 400×400																			

▷ 3. 外壁湿式工法

- (4) 取り付用モルタル、既調合の目地用モルタル、浸透性吸水防止剤、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料  
\* 専門工事業者の指定する製品  
○ \_\_\_\_\_
- (1) 受金物 (10. 2. 2)  
材質 \* ステンレス製 (SUS304) ○ \_\_\_\_\_  
形状及び寸法 \* L-75×75×6 (mm)  
( ○ 長さ=100mm ○ 長さ=150mm )  
○
- (2) アンカーの材質及び寸法 (10. 2. 2)  
材質 \* SS400 ○ 寸法:
- (3) あと施工アンカーの種類、材質及び寸法  
種類: 材質: 寸法:
- (4) 上記以外の金物の材質、形状及び寸法  
\* 図示 ○
- (5) ドレンパイプの材質  
○ 樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25~35φ  
○
- (6) 石材の厚さ (mm) ○ (10. 3. 2)
- (7) 石裏面処理 ○ 適用する ○ 適用しない
- (8) 裏打ち処理 ○ 適用する ○ 適用しない
- (9) 下地ごしらえ \* あと施工アンカー ○ 横筋流し工法 (10. 3. 3)  
○ 流し筋工法  
○ あと施工アンカー工法
- (10) 目地 一般目地 目地幅 (mm) \* 6以上 ○ (10. 3. 3)  
シーリング材 ○ 適用する ○ 適用しない  
伸縮調整目地  
位置 \* 標準仕様書 表11. 1. 1による  
○ 図示  
シーリング材の目地寸法 (標仕9. 7. 3(1) (ウ)による)  
\* 幅・深さとも10mm以上  
○ 図示

▷ 4. 内壁空積工法

- (1) 受金物 (10. 2. 2)  
材質 \* ステンレス製 (SUS304) ○ \_\_\_\_\_  
形状及び寸法 \* L-75×75×6 (mm)  
( ○ 長さ=100mm ○ 長さ=150mm )  
○
- (2) アンカーの材質及び寸法 (10. 2. 2)  
材質 \* SS400 ○ 寸法:
- (3) あと施工アンカーの種類、材質及び寸法  
種類: 材質: 寸法:
- (4) 上記以外の金物の材質、形状及び寸法  
\* 図示 ○
- (5) 石材の厚さ (mm) ○ (10. 4. 2)
- (6) 石裏面処理 ○ 適用する ○ 適用しない
- (7) 裏打ち処理 ○ 適用する ○ 適用しない
- (8) 下地ごしらえ \* あと施工アンカー ○ 横筋流し工法 (10. 4. 3)  
○ 流し筋工法  
○ あと施工アンカー工法

▷ 5. 外壁乾式工法	(9) 目地 一般目地 目地幅(mm) * 6以上 ○ (10.3.3)
	シーリング材 ○ 適用する ○ 適用しない
	伸縮調整目地
	位置 * 6m程度ごと
	○ 図示
	シーリング材の目地寸法 (9.7.3(1)(ウ))
	* 幅・深さとも10mm以上
	○ 図示
	(1) 外壁乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等 (10.2.2)
	* 標準仕様書 表10.2.4
方式 ○ スライド方式 ○ ロッキング方式	
○ 図示	
(2) アンカーの材質及び寸法 (10.2.2)	
材質: * ステンレス製(SUS304) ○	
寸法:	
(3) あと施工アンカーの種類、材質及び寸法	
種類: 材質: 寸法:	
(4) 上記以外の金物の材質、形状及び寸法	
* 図示 ○	
(5) 石材の厚さ(mm) * 30以上 ○ _____ (10.5.2)	
(6) だぼ用の穴の位置	
* 標準仕様書 10.5.2(2)(ア) ○ 図示	
(7) 裏打ち処理 ○ 適用する ○ 適用しない	
(8) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 (10.5.3)	
* 図示	
(9) 目地 目地幅(mm) * 8以上 ○ (10.5.3)	
シーリング材 ○ 適用する	
( * 標準仕様書 9.7による ○ 図示)	
○ 適用しない	
▷ 6. 床及び階段の石張り	(1) 石材の厚さ(mm) 床( ) 階段( ) (10.6.2)(10.6.3)
	(2) 床石張り (10.6.2)
	浸透性吸水防止剤 ○ 適用する ○ 適用しない
	石裏面処理 ○ 適用する ○ 適用しない
	裏打ち処理 ○ 適用する ○ 適用しない
	(3) 階段張り (10.6.3)
	石裏面処理 ○ 適用する ○ 適用しない
	(4) 目地 一般目地 目地幅(mm) (10.6.2)(10.6.3)
	* 図示 ○
	シーリング材 ○ 適用する ○ 適用しない
伸縮調整目地	
位置 * 床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合	
6m程度ごと及び他部材との取り合い部	
○ 図示	
シーリング材の目地寸法	
* 幅・深さとも10mm以上	
○ 図示	
▷ 7. 笠木、甲板等の石張り	(1) 取付工法 (10.7.2)(10.2.2)
	○ 湿式工法 ○ 乾式工法
	(2) 湿式工法の取付金物
	○ 標準仕様書 10.2.3(1) ○ 図示
	(3) 乾式工法の取付金物
○ 標準仕様書 10.2.3(2) ○ 図示	
方式 ○ スライド方式 ○ ロッキング方式	

- (4) 特殊部位用金物
  - 標準仕様書 10.2.2(3)                      ○ 図示
  - ファスナー                      ○ 図示
- (5) アンカーの材質及び寸法 (10.2.2)
  - 湿式工法の材質： \* SS400                      ○
  - 寸法：
  - 乾式工法の材質： \* ステンレス(SUS304)製                      ○
  - 寸法：
- (6) あと施工アンカーの種類、材質及び寸法
  - 種類：                      材質：                      寸法：
- (7) 上記以外の金物の材質、形状及び寸法
  - \* 図示                      ○
- (8) 石材の厚さ(mm)                      ○ (10.7.2)
- (9) 石裏面処理                      ○ 適用する                      ○ 適用しない
- (10) 乾式工法の場合の取付け代
  - \* 標準仕様書 10.5.3(2)                      ○ 図示
- (11) 石裏の補強用モルタル
  - 適用する                      ○ 適用しない
- (12) 目地
  - 湿式工法の場合
    - 一般目地 目地幅(mm) \* 6以上                      ○ (10.3.3)
    - シーリング材                      ○ 適用する                      ○ 適用しない
    - 伸縮調整目地
      - 位置 \* 標準仕様書 表11.1.1による
      - 図示
      - シーリング材の目地寸法
        - \* 幅・深さとも10mm以上
        - 図示
  - 乾式工法の場合
    - 目地幅(mm) \* 8以上                      ○ (10.5.3)
    - シーリング材                      ○ 適用する
    - ( \* 標準仕様書 9.7による ○ 図示)
    - 適用しない

▷ 8. 隔て板

- (1) 石材の厚さ(mm) (10.7.3)
  - \* 40                      ○

○ 第11章 タイル工事

項目	特記事項
▷ 1. 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地	(1) 位置 * 標準仕様書 表11.1.1による (11.1.3) ○ 図示
▷ 2. 見本焼、試験施工	(1) 見本焼き                      ○ 行う                      ○ 行わない (11.1.4) (2) 試験張り                      ○ 行う                      ○ 行わない
▷ 3. セメントモルタルによるタイル張り	(1) タイルの形状、寸法等 (11.2.2)

施行箇所	種類	形状寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性
			I類	II類	III類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無	
		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

- (2) 既調合モルタル (11. 2. 3)  
 既調合モルタルの製造所の仕様による
- (3) 下地モルタル塗りのコンクリート素地面の下地処理方法 (11. 2. 6)  
 目荒し方法(標準仕様書15. 3. 4(4)による)  
 MCR工法(標準仕様書6. 8による)
- (4) 壁タイル張りの方法 (表11. 2. 3)  
 内外装タイル  密着張り  改良圧着張り  
 内装タイル以外のユニットタイル  
 マスク張り  モザイクタイル張り  
 (11. 3. 2~11. 3. 4) (11. 3. 7)
- ▶ 4. 有機系接着剤による  
 タイル張り
- (1) タイルの形状、寸法等

施行箇所	種類	形状寸法 (mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性
			I類	II類	III類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無	
		×	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
		×	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 (11. 3. 3)  
 \* F☆☆☆☆
- (3) 外装タイルにおける目地詰め (11. 3. 3) (11. 3. 5)  
 行う  行わない
- (4) 目地のシーリング材 (11. 3. 4)  
 打継目地  
 \* ポリウレタン系シーリング材   
 ひび割れ誘発目地  
 \* ポリウレタン系シーリング材   
 伸縮調整目地  
 \* 変成シリコン系シーリング材   
 その他の目地  
 \* 変成シリコン系シーリング材
- (5) 下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の下地処理方法 (11. 3. 5)  
 目荒し方法(標準仕様書15. 3. 4(4)による)  
 MCR工法(標準仕様書6. 8による)

○ 第12章 木 工 事

項 目	特 記 事 項									
▶ 1. 材料	(1) 木材の含水率 (12. 2. 1) (表12. 2. 1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th colspan="2">種 別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下地材</td> <td>* A種 (15%以下)</td> <td><input type="radio"/> B種 (20%以下)</td> </tr> <tr> <td>造作材</td> <td>* A種 (15%以下)</td> <td><input type="radio"/> B種 (18%以下)</td> </tr> </tbody> </table> ※12. 2. 1(2)から(6)までで含水率が規定されているものはその規定による。	部位	種 別		下地材	* A種 (15%以下)	<input type="radio"/> B種 (20%以下)	造作材	* A種 (15%以下)	<input type="radio"/> B種 (18%以下)
部位	種 別									
下地材	* A種 (15%以下)	<input type="radio"/> B種 (20%以下)								
造作材	* A種 (15%以下)	<input type="radio"/> B種 (18%以下)								

(2) 材料のホルムアルデヒド放散量等

\* F☆☆☆☆

ホルムアルデヒド放散量非表示で塗装なし

\* 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 ○ \_\_\_\_\_

ホルムアルデヒド放散量非表示で塗装したもの

\* 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 ○ \_\_\_\_\_

ホルムアルデヒド放散量非表示で化粧加工したもの

\* 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 ○ \_\_\_\_\_

(3) 製材 (12. 2. 1) (表12. 2. 2)

7. JAS 1083 (製材) に基づく製材

(ア) 下地用製材 (JAS 1085-5)

施工箇所	寸法	等級	含水率	保存処理
		* 2級 ○		
		* 2級 ○		
		* 2級 ○		

(イ) 造作用製材 (JAS 1083-2)

施工箇所	寸法	等級	含水率	保存処理
		○ 上小節 ○ 小節以上		
		○ 上小節 ○ 小節以上		
		○ 上小節 ○ 小節以上		

(ウ) 広葉樹製材 (JAS 1083-6)

施工箇所	寸法	等級	含水率	保存処理
		* 1等 ○	10%以下	
		* 1等 ○	10%以下	
		* 1等 ○	10%以下	

イ. JAS 1083以外による製材

施工箇所	寸法	材面の品質	防虫処理	含水率
			○ 適用する ○ 適用しない	
			○ 適用する ○ 適用しない	
			○ 適用する ○ 適用しない	

造作材の材面の品質: \* A種 ○ B種 (表12. 2. 2)

代用樹種を使用できない箇所:

ウ. 針葉樹製材は、JAS乾燥認定工場から出荷された木材は、出荷証明書を、その他の工場から出荷された木材は、北海道林産物検査会が発行する検査証明書を提出すること。

エ. カラマツの使用範囲は、原則として東・母屋・土台・大引きとする。

オ. 表面処理用防腐剤は工事監督員の承諾するものとする。

(4) 造作用集成材等 (12. 2. 1)

7. 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材等

(ア) 造作用集成材

施工箇所	品名	樹種	寸法 (mm)	見付材 け面	見付材面の品質
					* 1等 ○ 2等
					* 1等 ○ 2等
					* 1等 ○ 2等

## (4) 化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板 の厚さ(mm)	見付材 け面	見付材面の品質
		化粧薄板:				* 1等 ○ 2等
		芯材:				* 1等 ○ 2等
		化粧薄板:				* 1等 ○ 2等
		芯材:				* 1等 ○ 2等
		化粧薄板:				* 1等 ○ 2等
		芯材:				* 1等 ○ 2等

(5) 「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材等

## 7. 造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率
				* 15%以下 ○
				* 15%以下 ○
				* 15%以下 ○

## 4. 化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材 面の品質	含水率
	化粧薄板:				* 15%以下
	芯材:				○
	化粧薄板:				* 15%以下
	芯材:				○
	化粧薄板:				* 15%以下
	芯材:				○

(6) 造作用単板積層材

(12. 2. 1)

## 7. JAS 0701による造作用単板積層材

(7) 造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法	表面の品質	防虫処理
			○ 有り (加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工)	○ 適用する ○ 適用しない
			○ 無し (等級: )	
			○ 有り (加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工)	○ 適用する ○ 適用しない
			○ 無し (等級: )	

4. JAS 0701以外の造作用単板積層材

(12. 2. 1)

(7) 造作用単板積層材

施工箇所	寸法	表面の品質	含水率	防虫処理
		○ 有り (加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工)	* 14%以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない
		○ 無し ( )		
		○ 有り (加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工)	* 14%以下 ○	○ 適用する ○ 適用しない
		○ 無し ( )		

(7) 直交集成板 (JAS 3079)

(12. 2. 1)

品名	強度等級	種別	接着性能	樹種	寸法

(8) 合板等

7. 下地用合板

(12.2.1)

(7) 「合板の日本農林規格」の普通合板

施工箇所	品名	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理
		* 5.5 ○		* 1類 ○ 2類	広葉樹 * 2等 ○ 1等 針葉樹 * C-D ○	○ 適用する ○ 適用しない
		* 5.5 ○		* 1類 ○ 2類	広葉樹 * 2等 ○ 1等 針葉樹 * C-D ○	○ 適用する ○ 適用しない

4. 構造用合板

(12.2.1)

(7) 「合板の日本農林規格」の構造用合板・化粧ばり構造用合板

施工箇所	品名	厚さ (mm)	接着の程度	等級	板面の品質	単板の樹種名	保存処理	防虫処理	強度等級
		* 12 ○	* 1類 ○ 2類 * ※特類	* 2級 ○ 1級	* C-D ○			○ 適用する ( ) ○ 適用しない	○ 適用する ( ) ○ 適用しない
			* 1類 ○ 2類 * ※特類	* 2級 ○ 1級	* C-D ○			○ 適用する ( ) ○ 適用しない	○ 適用する ( ) ○ 適用しない

※常時湿潤状態となる場所の接着の程度は特類とする

(イ) 天然木化粧合板

(12.2.1)

施工箇所	厚さ (mm)	接着の程度	単板の樹種名	防虫処理	防虫処理
	* ○	* 1類 ○ 2類			

(ロ) 特殊加工化粧合板

(12.2.1)

施工箇所	品目	厚さ (mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		* 5.5 ○	* 1類 ○ 2類		○ オーバーレイ ○ プリント ○ 塗装等	
		* 5.5 ○	* 1類 ○ 2類			

ウ. パーティクルボード (JIS A 5908)

(12.2.1)

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)
		* 13タイプ ○	○ MR1 (M) ○ MR2 (P)		* 15 ○
		* 13タイプ ○	○ MR1 (M) ○ MR2 (P)		* 15 ○



エ. ミディアムデンシティファイバーボード (MDF) (JIS A 5905)

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)
		○ 13タイプ ○ 15タイプ ○ 25タイプ ○ 30タイプ	○ P ○ M ○ U		* 15  ○
		○ 13タイプ ○ 15タイプ ○ 25タイプ ○ 30タイプ	○ P ○ M ○ U		* 15  ○

オ. JAS 0360の構造用パネル (12. 2. 1)

施工箇所	品名	厚さ (mm)

▷ 2. 接合具等

(1) 釘等 (12. 2. 2)

\* 隠し釘打ち ○ \_\_\_\_\_

(2) 諸金物 (12. 2. 2)

諸金物の形状・寸法・材質

\* 表12. 2. 3~12. 2. 5による

コンクリート埋込部を除き表14. 2. 2のF種程度

○ \_\_\_\_\_

(3) 接合具等の接着剤： (12. 2. 2)

ホルムアルデヒド放散量： \* F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_

(4) 木れんがの接着工法に使用する接着剤： (12. 2. 3)

ホルムアルデヒド放散量： \* F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_

▷ 3. 防腐・防蟻・防虫処理

(1) 防腐・防蟻処理 (12. 3. 1)

7. 防腐・防蟻処理が不要な樹種による製材

適用部位 ( \_\_\_\_\_ )

イ. 工場における薬剤の加圧注入処理等 (12. 3. 1)

適用部位	保存処理性能区分				
	○ K2	○ K3	○ K4	○ インジキング	
	○ K2	○ K3	○ K4	○ インジキング	

ウ. 薬剤の塗布等 (12. 3. 1)

適用部位	処理の方法
	* 薬剤の製造所の仕様による
	○ _____

エ. ボード原料接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理

適用部位 ( \_\_\_\_\_ )

オ. 合板等の加圧注入による防腐・防蟻処理

○ 使用する (K3の防虫処理) ○ 使用しない

(2) 防虫処理 (12. 3. 2)

ラワン材等

○ 使用する (K1の防虫処理) ○ 使用しない

▷ 4. 鉄筋コンクリート造等の内部間仕切り軸組及び床組

(1) 間仕切り軸組に用いる木材 (12. 4. 1)

\* 杉又は松 ○ \_\_\_\_\_

(2) 床組に用いる木材

\* 杉又は松 ○ \_\_\_\_\_

土間スラブ類の場合の土台転ばし大引及び転ばし根太

\* ひのき又は3節による保存処理木材 ○ \_\_\_\_\_

▷ 5. 窓、出入り口その他

(1) 窓、出入り口その他に用いる木材

\* 吊元枠、水掛かりの下枠及び敷居：ひのき  
その他：松又は杉

▷ 6. 床板張り

(1) 縁甲板及び上がりがまちに用いる木材

\* ひのき ○ \_\_\_\_\_

▷ 7. 壁及び天井下地

(1) 木材

\* 杉又は松 ○ \_\_\_\_\_

○ 第13章 屋根工事及びとい工事

項目  
▷ 1. 長尺金属板葺

特記事項

(1) 材料 (13.2.2) (13.2.3) (表13.2.1)

施行箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性の種類、めっき付着量等	厚さ(mm)	屋根葺形式	葺板の寸法・厚さ	下地	留め付け方法
	* JIS G 3322の屋根用コイル ○			○ 立て平葺 ○ 心木なし瓦棒葺 ○ 横葺 ○			

(2) 下葺材料 ○ アスファルトルーフィング940  
○ 改質アスファルトルーフィング下葺材  
○ 一般タイプ  
○ 複層基材タイプ  
○ 粘着層付タイプ

(3) 工法 (13.2.3)

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

○ 図示 ○

横葺の場合のけらば納め

○ つかみ込み納め ○ けらば包み納め

雪止め ○ 設置する ( ○ 図示 ○ )

▷ 2. 折板葺

(1) 材料 (13.3.2) (表13.2.1)

施行箇所	形式	山高・山ピッチによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板
		山高	山ピッチ				
	○			( ) 種	* 鋼板製 ○		○ 有 ○ 無

(2) 材質の種類 ( \_\_\_\_\_ )

(3) 塗膜の耐久性の種類、めっき付着量等 ( \_\_\_\_\_ )

(4) 断熱材

○ 有り

( 種別 : \_\_\_\_\_ 厚さ(mm) : \_\_\_\_\_ 防火性能 : \_\_\_\_\_ 時間 )

○ 無し

(5) 工法 (13.3.3)

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

○ 図示 ○

耐雪性能に応じた工法

○ 適用する ( ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_ ) ○ 適用しない

(6) 折板のけらば納め \* けらば包みによる方法 ○

▷ 3. とい

(1) 材料 (13.5.2) (表13.5.1)

といの種類 ○ 配管用鋼管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管

○

○ 表面処理鋼板

○ 表面及び裏面の塗膜の種類 ( \_\_\_\_\_ )

○ 耐酸被膜鋼板 ○

▷ 4. ルーフドレイン

といの受金物

といの受金物の材類、形状、取付け間隔

\* 標準仕様書 表13.5.2による ○ \_\_\_\_\_

足金物の材類、形状、取付け間隔

\* 標準仕様書 表13.5.2による ○ \_\_\_\_\_

○ 多雪地域の場合の軒どいの取付間隔0.5m以下

○ 図示

防露材のホルムアルデヒド放散量

\* F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_

(2) 工法

(13.5.3)

○ 鋼管製といる場合の防露巻きの工法

○ 標準仕様書 13.5.4による ○ \_\_\_\_\_

JCW 301 によるルーフドレインの種類及び呼び

(13.5.2)

種類		呼び	施行箇所
○ ろく屋根用たて形 I 型	ねじ込み式	○	
○ ろく屋根用横形 I 型	ねじ込み式	○	
○ バルコニー中継用	○ ねじ込み式 ○ 差し込み式	○	
○ バルコニー用	○ ねじ込み式 ○ 差し込み式	○	
○		○	

○ 第14章 金属工事

▷ 1. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

特記事項

(1) 表面処理 (14.2.1) (表14.2.1)

種別	施行箇所 (成型板、笠木、建具以外)	色合い等
○ AB-1種		
○ AB-2種		
○ AC-1種		
○ AC-2種		
○ BA-1種		
○ BA-2種		
○ BB-1種		
○ BB-2種		
○ BC-1種		
○ BC-2種		
○ C種		

○ 常温乾燥形の塗装の場合 ( \_\_\_\_\_ )

(2) 陽極酸化皮膜による着色方法

\* 二次電解着色 ○ 三次電解着色

▷ 2. 鉄鋼の亜鉛めっき

(1) 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.2) (表14.2.2)

表面処理方法	種別	施行箇所 (手すり、タラップ以外)
溶融亜鉛めっき	○ A種	
	○ B種	
	○ C種	
電気亜鉛めっき	○ D種	
	○ E種	
	○ F種	

- ▷ 3. 軽量鉄骨天井下地
- (1) 野縁等の種類 (14. 4. 2) (表14. 4. 1)  
 屋外 \* 25型 ○ 19型  
 屋内 \* 19型 ○ 25型  
 ○ 屋外の場合の形式及び寸法 (14. 4. 3)  
 野縁受、つりボルト、インサートの間隔及び周辺部端からの距離  
 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_
- 野縁の間隔  
 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_
- 断熱インサート  
 床及び壁等で内部断熱を施した面の、内面アンカーに使用
- (2) 工法 (14. 4. 4)  
 ○ つりボルトの間隔が900mmを超える場合  
 補強方法 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_  
 ○ 天井のふとところが3. 0mを超える場合  
 補強方法 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_  
 ○ 天井下地材における耐震性を考慮した補強  
 補強箇所、補強方法 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_  
 ○ 屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強  
 補強箇所、補強方法 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_
- ▷ 4. 軽量鉄骨壁下地
- (1) スタッド、ランナ等の種類 (14. 5. 3)  
 \* 標準仕様書 表14. 5. 1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類  
 ○ 図示
- (2) スタッドの高さが5. 0mを超える場合  
 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_
- (3) 出入口及びこれらに準ずる開口部の補強 (14. 5. 4)  
 \* 標準仕様書 14. 5. 4(5)による ○ 図示
- ▷ 5. 金属成形板張り
- (1) 種別 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_ (14. 6. 2)  
 (2) 表面処理 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_
- (3) 取付け用下地  
 \* 標準仕様書 14. 4による ○ 図示
- (4) 伸縮調整継手 (14. 6. 3)  
 ○ 設ける (施行箇所 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_)  
 ○ 設けない
- ▷ 6. アルミニウム製笠木
- (1) 部材の種類 (14. 7. 2) (表14. 7. 1)  
 ○ 250形 ○ 300形 ○ 350形 ○ \_\_\_\_\_
- (2) 表面処理 種別 ( ) 種 (14. 7. 2) (表14. 2. 1)  
 色合等 ○ 標準色 ( \_\_\_\_\_ )  
 ○ 特注色 ( \_\_\_\_\_ )
- (3) 笠木の固定金具の工法等  
 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法  
 ○ 図示 ○

○ 第15章 左官工事

項 目	特 記 事 項
<p>▷ 1. ラス系下地</p>	<p>(1) 下地の種類 (15. 2. 4)  <input type="radio"/> 通気構法 ( <input type="radio"/> 二層下地 <input type="radio"/> 単層下地 )  <input type="radio"/> 直張り工法            ( <input type="radio"/> ラスモルタル下地 <input type="radio"/> ラスシートモルタル下地 )  <input type="radio"/> 図示 ( 外張断熱工法で断熱材の外側に胴縁を施工する形式の通気構法を行う場合)</p> <p>(2) 材料 (15. 2. 4)            ラス材及ぶ補強用平ラス            材料記号 ( * K <input type="radio"/> _____ )            種類及び単位面積当たりの質量  <input type="radio"/> 二層下地通気構法  <input type="radio"/> 波形ラス(W700) <input type="radio"/> こぶラス(K800)  <input type="radio"/> 力骨付きラス(BP700)  <input type="radio"/> 単層下地通気構法  <input type="radio"/> リプラスC(BC800)に下張りシートのある裏打ち材などと一体化したラス  <input type="radio"/> _____            ラスシートの山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチによる区分            * LS4 (耐力壁の場合) <input type="radio"/> _____            ステープルの形状及び寸法            リプラス            * L925TS以上 (リプラスC(RC800)の場合)  <input type="radio"/> _____</p> <p>(3) 施工 (15. 2. 4)            二層下地通気構法            換気口部の措置 * 講ずる <input type="radio"/> _____            直張り工法 (ラスシートモルタル下地の場合)            建築基準法に基づく耐力壁として使用する場合のラスシートの施工  <input type="radio"/> 図示 <input type="radio"/> _____</p>
<p>▷ 2. せっこうボード、 その他のボード下地</p>	<p>(1) 材料 (15. 2. 5)            せっこうボード、せっこうラスボード及び木質系セメント板の種類及び厚さ            せっこうボード 種類 ( ) 厚さ ( mm)            せっこうラスボード 種類 ( ) 厚さ ( mm)            木質系セメント板 種類 ( ) 厚さ ( mm)</p>
<p>▷ 3. こまい下地</p>	<p>(1) 建築基準法に基づく耐力壁の指定 <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり (15. 2. 6)</p>
<p>▷ 4. 木ずり下地</p>	<p>(1) 材料 (15. 2. 7)            木ずり用小幅板の材種 * 杉 (心去り材) <input type="radio"/> _____</p>
<p>▷ 5. モルタル塗り</p>	<p>(1) モルタル <input type="radio"/> 現場調合材料 <input type="radio"/> 既調合材料 (15. 3. 2)            (2) 既製目地材 (15. 3. 2)  <input type="radio"/> 設ける 施行箇所 ( _____ )            形状 ( <input type="radio"/> 図示 <input type="radio"/> _____ )  <input type="radio"/> 設けない            (3) 床の目地  <input type="radio"/> 設ける 目地幅 * 2m程度 (最大目地間隔3m程度)  <input type="radio"/> _____            種類 * 押し目地 <input type="radio"/> _____  <input type="radio"/> 設けない</p>

▷ 6. 仕上塗材仕上げ

(4) 外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験 (15.3.5)

○ 行う ○ 行わない

(1) 建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 (15.6.2)

\* F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_

(2) 材料 (15.6.2)

○ 薄付け仕上塗材 (表15.6.1)(その1)

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状 ○ さざ波状	○ 吹付け ○ ローラー塗り	/	○ 適用する ○ 適用しない
○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状 ○ さざ波状	○ 吹付け ○ ローラー塗り		○ 適用する ○ 適用しない
○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ さざ波状 ○ 着色骨材砂壁状	○ 吹付け ○ こて塗り ○ ローラー塗り		○ 適用する ○ 適用しない
○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ さざ波状	○ 吹付け ○ こて塗り ○ ローラー塗り		○ 適用する ○ 適用しない
○ 防水形外装薄塗材E	○ ゆず肌状 ○ さざ波状 ○ 凹凸状	○ 吹付け ○ ローラー塗り		○ 適用する ○ 適用しない
○ 外装薄塗材S	○ 砂壁状	○ 吹付け		○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装薄塗材C ○ 内装薄塗材L	○ 凹凸状 ○ 平たん状 ○ ゆず肌状 ○ さざ波状	○ 吹付け ○ こて塗り ○ ローラー塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装薄塗材Si ○ 内装薄塗材E	○ 砂壁状じゅらく ○ ゆず肌状 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ さざ波状	○ 吹付け ○ こて塗り ○ ローラー塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装薄塗材W	○ 京壁状じゅらく ○ ゆず肌状 ○ 平たん状 ○ 凹凸状	○ 吹付け ○ こて塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない

○ 厚付け仕上塗材 (表15.6.1)(その2)

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
○ 外装厚塗材C	○ 吹放し ○ 凸部処理 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ ひき起こし ○ かき落とし	○ 吹付け ○ こて塗り	/	○ 適用する ○ 適用しない

○ 外装厚塗材Si ○ 外装厚塗材E	○ 吹放し ○ 凸部処理 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ ひき起こし	○ 吹付け ○ こて塗り ○ ローラー塗り	/	○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装厚塗材C	○ 吹放し ○ 凸部処理 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ ひき起こし ○ かき落とし	○ 吹付け ○ こて塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装厚塗材L	○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ ひき起こし ○ かき落とし	○ こて塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装厚塗材G	○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ ひき起こし ○ かき落とし	○ こて塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない
○ 内装厚塗材Si ○ 内装厚塗材E	○ 吹放し ○ 凸部処理 ○ 平たん状 ○ 凹凸状 ○ ひき起こし	○ 吹付け ○ こて塗り ○ ローラー塗り	○ 適用する ○ 適用しない	○ 適用する ○ 適用しない

外装厚塗材Cにおける上塗材がセメントスタッコ以外の場合  
( )

外装厚塗材Si、外装厚塗材Eにおける上塗材の適用

○ 適用する      ○ 適用しない

○ 複層仕上塗材 (表15.6.1)(その3)

○ 軽量骨材仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
○ 複層塗材CE ○ 複層塗材RE ○ 複層塗材Si ○ 複層塗材E	○ 凸部処理 ○ 凹凸状 ○ ゆず肌状	○ 吹付け ○ ローラー塗り	○ 耐候形3種 ○	○ 適用する ○ 適用しない
可とう形 ○ 複層塗材GE	○ 凸部処理 ○ 凹凸状 ○ ゆず肌状	○ 吹付け ○ ローラー塗り	○ 耐候形3種 ○	○ 適用する ○ 適用しない
○ 防水形複層塗材CE ○ 防水形複層塗材RE ○ 防水形複層塗材E	○ 凸部処理 ○ 凹凸状 ○ ゆず肌状	○ 吹付け ○ ローラー塗り	○ 耐候形3種 ○	○ 適用する ○ 適用しない
○ 吹付用軽量塗材	○ 砂壁状	○ 吹付け	/	○ 適用する ○ 適用しない
○ こて塗用軽量塗材	○ 平たん状	○ こて塗り	/	○ 適用する ○ 適用しない

複層仕上塗材の上塗材 (15.6.2)(表15.6.2)

樹脂 ○ アクリル系      ○ シリカ系      ○ ポリウレタン系  
○ アクリルシリコン系      ○ ふっ素系

外観 ○ つやあり      ○ つやなし      ○ メタリック

溶媒 ○ 溶剤系      ○ 弱溶剤系      ○ 水系

▷ 7. マスチック塗材塗り

(1) 種別 ○ A種      ○ B種 (15.7.2)(表15.7.1)

▷ 8. しっくい塗り

- (1) 下地の種類 ( \_\_\_\_\_ ) (15. 10. 1)  
○ 標準仕様書15. 10. 1による場合以外の下地への適用  
( \_\_\_\_\_ )
- (2) 材料 (15. 10. 2)  
○ 標準仕様書15. 10. 2(1) (ア), (イ)による  
色しっくい ○ 適用する ○ 適用しない  
○ \_\_\_\_\_
- (3) 調合及び塗厚 (15. 10. 3) (表15. 10. 1～表15. 10. 4)  
既調合しっくい \* 標準仕様書15. 10. 3(1)による  
○ \_\_\_\_\_  
現場調合しっくい \* 標準仕様書15. 10. 3(2)による  
○ \_\_\_\_\_
- (4) 既調合しっくいの上塗り仕上げ工法 (15. 10. 4) (表15. 10. 5)  
○ なで切り仕上げ ○ パターン仕上げ

▷ 9. こまい壁塗り

- (1) 材料 (15. 11. 2)  
土壁用ののりの種類 \* つのまた ○ ふのり  
○ ぎんなんそう ○ 粉末海藻  
砂壁用ののりの種類 \* ふのり ○ つのまた  
○ こんにゃくのり ○ にかわ  
○ 合成高分子系混和剤  
色土の種類 ○ 土物仕上げ ( \_\_\_\_\_ )  
○ 大津仕上げ ( \_\_\_\_\_ )  
色砂の種類 ○ 天然砂と岩石の砕砂  
○ 人工的に着色・製造したもの
- (2) 調合 下塗りの調合 \* 標準仕様書表15. 11. 2による (15. 11. 3)  
○ \_\_\_\_\_
- (3) 塗厚 \* 標準仕様書表15. 11. 8による (15. 11. 4)  
○ 建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合  
○ 図示 ○ \_\_\_\_\_
- (4) 工程 こまい壁 \* A種 ○ B種 (15. 11. 5) (表15. 11. 9)
- (5) 土物仕上げの工法 (15. 11. 7)  
○ 土物仕上げの工法  
○ 水こね土物1工法 ○ 水こね土物2工法  
○ のりさし土物工法 ○ のりごね土物工法  
○ 砂壁仕上げ工法  
○ 切返し仕上げ工法
- (6) 大津仕上げの工法 (15. 11. 8)  
○ 普通大津仕上げ工法 ○ 大津みがき工法

▷ 10. ロックウール吹付け

- (7) ちりじゃくり ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_ (15. 11. 7) (15. 11. 8)
- (1) ロックウールのホルムアルデヒド放散量 (15. 12. 2)  
\* F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_
- (2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量  
\* F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_
- (3) 仕上げ吹付け厚さ(mm) (15. 12. 3)  
\* 図示 ○ \_\_\_\_\_





▷ 5. 網戸

(1) 防虫網の材質 (16. 2. 3)

\* 合成樹脂製

○ ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ ステンレス製 (SUS316)

線径 \* 0.25mm以上 ○ mm以上

網目 \* 16~18メッシュ ○ メッシュ

▷ 6. 樹脂製建具

(1) 外部に面する建具の性能等級等 (16. 3. 2)

(コンクリート系下地及び鉄骨下地) (表16. 3. 1)

種 別	○ A種	○ B種	○ C種
耐 風 圧 性	S-4	S-5	S-6
気 密 性	A-4		
水 密 性	W-4	W-5	

(木下地) (表16. 3. 2)

種 別	○ D種	○ E種
耐 風 圧 性	S-2	S-3
気 密 性	A-4	
水 密 性	W-4	

(2) 枠の見込み寸法: \* 建具表による ○ (16. 3. 4)

(3) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級 (16. 3. 2)

○ T-1 ○ T-2

(4) 断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級

\* 外部に面する建具の断熱性の等級 (表16. 3. 3)

○ 適用する (○ H-4 ○ H-5 ○ H-6)

○ H-7 ○ H-8)

○ 適用しない

○

(5) ガラス: \* 複層ガラス ○ 単板ガラス ○ 三重ガラス (16. 3. 3)

(6) 表面色: ○ 標準色 (白) ○ 特注色 (16. 3. 4)

(7) 水切り板、ぜん板等 \* 図示 ○ (16. 2. 5)

(8) 木下地の内付け建具 (16. 3. 5) (16. 2. 5)

○ 適用する (建具の製造所の仕様) ○ 適用しない

(9) 外部に面する建具の日射熱取得性の等級 (16. 3. 2)

○ N-1 ○ N-2 ○ N-3

▷ 7. 鋼製建具

(1) 簡易気密型ドアセットの気密性等級、水密性等級 (16. 4. 2)

○ 標準仕様書表16. 4. 1による ○ 建具表による

(2) 外部に面する建具の耐風圧性の等級 (表16. 2. 1)

○ S-4 ○ S-5 ○ S-6

(3) 防音ドア、防音サッシとする場合 (16. 2. 2)

遮音性の等級 (○ )

(4) 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (16. 2. 2)

断熱性の等級 (○ )

(5) 耐震ドアとする場合 (16. 4. 2)

面内変形追随性の等級 (○ )

(6) ステンレス鋼板の種類 (16. 4. 3) (16. 6. 3)

\* SUS304, SUS430JIL, SUS443J1 ○

(7) 点検口の類のくつづりの材料 ○ (16. 4. 3)

(8) 鋼板の厚さ \* 標準仕様書16. 4. 4表16. 4. 2による (16. 4. 4)

○ 図示

(9) ステンレス製のくつづりの仕上げ \* HL ○ (16. 4. 4)

(10) 標準型鋼製建具の有効内法寸法(表16. 4. 5による) (16. 4. 6)

○ 適用する (建具符号、形式及び寸法は建具表による)

▷ 8. 鋼製軽量建具

- (1) 簡易気密型ドアセット ○ A-3 (16. 5. 2)  
○ 建具表による
- (2) 防音ドア、防音サッシとする場合 (16. 2. 2)  
遮音性の等級 ( ○ )
- (3) 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (16. 2. 2)  
断熱性の等級 ( ○ )
- (4) 耐震ドアとする場合 (16. 5. 2)  
面内変形追随性の等級 ( ○ )
- (5) 戸の鋼板 (16. 5. 3)  
○ 亜鉛めっき鋼板 ○ ビニル被覆鋼板  
○ カラー鋼板 ○ ステンレス鋼板
- (6) 召合わせ、縦小口包み板等の材質 (16. 5. 3)  
○ ステンレス鋼板 \* 鋼板 ○ アルミニウム合金
- (7) 鋼板類の厚さ (16. 5. 4)  
\* 標準仕様書16. 5. 4表16. 5. 1による  
○ 図示
- (8) ステンレス製のくつづりの仕上げ (16. 5. 4) (16. 4. 4)  
\* HL ○
- (9) 標準型鋼製建具の有効内法寸法(表16. 4. 5による) (16. 5. 6)  
○ 適用する(建具符号、形式及び寸法は建具表による)

▷ 9. ステンレス製建具

- (1) 性能値等(建具符号は建具表による) (16. 6. 2)  
耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級  
\* 建具表による ○
- (2) 外部に面する建具の耐風圧性の等級 (表16. 2. 1)  
○ S-4 ○ S-5 ○ S-6
- (3) 防音ドア、防音サッシとする場合  
遮音性の等級 ( ○ )
- (4) 断熱ドア、断熱サッシとする場合  
断熱性の等級 ( ○ )
- (5) 耐震ドアとする場合 (16. 4. 2)  
面内変形追随性の等級 ( ○ )
- (6) ステンレス鋼板の種類 (16. 6. 3)  
\* SUS304, SUS430JIL, SUS443J1 ○ \_\_\_\_\_
- (7) 表面仕上げ \* HL ○ (16. 6. 4)
- (8) ステンレス製のくつづりの仕上げ (16. 5. 4) (16. 4. 4)  
\* HL ○
- (9) 曲げ加工 \* 普通曲げ ○ 角出し曲げ (16. 6. 5)
- (1) 建具材の加工、組立時の含水率 (16. 7. 2) (表16. 7. 1)  
\* A種 ○ B種
- (2) 接着剤のホルムアルデヒド放散量 (16. 7. 2)  
\* F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_
- (3) 枠及びくつづりの材料 (16. 7. 2)  
○ 建具表による ○  
○ フラッシュ戸 (16. 7. 2) (表16. 7. 2)

▷ 10. 木製建具

表面材の合板の種類

合板の種類	表面材の品質等
○ 普通合板	接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○ 板面の品質 * 広葉樹1等 ○
○ 天然木化粧合板	接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○

○ 特殊加工化粧合板	接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○
○ ミディアムデンシティファイバーボード (MDF)	表裏面の状態による区 ( ) 曲げ強さによる区 ( ) 接着剤による区分 ( ) 難燃性による区分 ( )

表面材の材料のホルムアルデヒド放散量

\* 標準仕様書16.7.2(2)(イ)(a)による ○ \_\_\_\_\_

表面板の厚さ (16.7.3)

\* 標準仕様書表16.7.6による ○

引戸の定規縁 (16.7.4)

○ 召し合せかまちをいんろう付きとする

○ かまち戸 (16.7.2)(16.7.3)(表16.7.7)

かまち樹種 ( ) 鏡板樹種 ( )

見込み寸法 \* 36mm ○ 建具表による ○

○ ふすま (16.7.2)(表16.7.3)(16.7.3)

(表16.7.7)(16.7.4)(表16.7.10)

種別、工法

下張り ○ I型 ○ II型

上張り、縁仕上 ○ 鳥の子 ○ 新鳥の子又はビニル紙程度

○ 生地縁 (ウレタンクリヤー塗装)

見込み寸法 \* 19.5mm ○ 建具表による ○

○ 戸ふすま (16.7.2)(16.7.3)(表16.7.7)(16.7.4)

表面材の種類、品質等 ( )

見込み寸法 \* 30mm ○ 建具表による ○

○ 紙張り障子 (16.7.3)(表16.7.7)

見込み寸法 \* 30mm ○ 建具表による ○

▷ 11. 建具用金物

(1) 取付け施工 (16.8.3)

取っ手類の取付け高さは、床仕上げ面からの高さとし、図示  
その他指示のない場合は、建具製造所の仕様による。

(2) 金物の種類・見え掛り部の材質等 (16.8.2)

\* 標準仕様書 表16.8.1及び適用 (備考欄の特記事項も含め)  
は、建具表による ○ \_\_\_\_\_

(3) 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ

\* 標準仕様書 表16.8.2による ○ \_\_\_\_\_

(4) 樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ

\* 標準仕様書 表16.8.3による ○ \_\_\_\_\_

(5) 木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ

\* 標準仕様書 表16.8.4による ○ \_\_\_\_\_

(6) 木製建具に使用する戸車及びレール

\* 標準仕様書 表16.8.5による ○ \_\_\_\_\_

(7) マスターキー ○ 製作する \* 製作しない (16.8.4)

○ 既存のマスターキーに合わせる

(8) 鍵: \* 3本1組 ○ \_\_\_\_\_ (16.8.4)

(9) 鍵箱: ○ 無し ○ 有り (16.8.4)

▷ 12. 自動ドア開閉装置

(10) 建具表で指示のない建具金物は16章8節による。

(1) 引き戸用駆動装置の性能 (16.9.2)(表16.9.1)

○ SSLD-1 ○ SSLD-2

○ DSLD-1 ○ DSLD-2

防錆の適用 ○ 適用する ○ 適用しない

- (2) 車椅子使用者用便房出入口に設置される引き戸用駆動装置の性能  
 \* 標準仕様書16.9.2表16.9.2による ○ \_\_\_\_\_  
 防錆の適用 ○ 適用する ○ 適用しない
- (3) 開閉方法は、建具表による。 (16.9.2)
- (4) 検出装置の性能 (16.9.2)  
 \* 表16.9.3による ○
- (5) 戸の開閉方式  
 \* 図示 ○
- (6) 引き戸用検出装置の種類 (表16.9.4)  
 ○ 光線（反射）センサー ○ 熱線センサー  
 ○ 音波センサー ○ 光電センサー  
 ○ 電波センサー  
 ○ タッチスイッチ  
 ( ○ 無線式タッチスイッチ ○ 光電式タッチスイッチ )  
 ○ 押しボタンスイッチ  
 ○ 車椅子使用者便房スイッチ  
 ( ○ 大形(開・閉)押しボタンスイッチ ○ 非接触スイッチ )
- (7) 凍結防止措置 (16.9.2)  
 ○ 適用する ○ 適用しない
- ▷ 13. 自閉式上吊り引戸装置
- (1) 性能等  
 \* 標準仕様書16.10.3表16.10.1による。  
 ○ 図示
- ▷ 14. 重量シャッター
- (1) シャッターの種類 (16.11.2)  
 ○ 管理用シャッター ○ 外壁用防火シャッター  
 ○ 屋内用防火シャッター ○ 防煙シャッター
- (2) 耐風圧強度 (16.11.2)  
 管理用シャッター \_\_\_\_\_ pa  
 外壁用防火シャッター \_\_\_\_\_ pa
- (3) シャッターケース（管理用シャッター） (16.11.2)  
 ○ 設ける ○ 設けない
- (4) 開閉方式 \* 電動式（手動併用） (16.11.2) (表16.11.1)  
 ○ 手動式
- (5) 安全装置  
 急降下制動装置又は急降下停止装置、  
 障害物感知装置、危険防止機構の設置個所  
 ○ 図示 ○
- (6) 注意喚起装置 ○ 音声発生装置 ○ 注意灯の設置  
 ○ シャッターへの危険表示  
 ○ シャッターの下降位置の表示
- (7) 吹雪止め 吹き込み防止用サイドシール（3方）を設置
- (8) 鋼板の種類及びめっきの付着量 (16.11.3)  
 種類 ○ JIS G 3302 ○ JIS G 3312  
 付着量 \* Z12又はF12 ○ \_\_\_\_\_
- (9) ステンレス鋼板 (16.11.3) (16.6.3)  
 \* SUS304, SUS430JIL, SUS443J1 ○ \_\_\_\_\_
- ▷ 15. 軽量シャッター
- (1) 開閉形式 \* 手動式 (16.12.2) (表16.12.1)  
 ○ 電動式（手動併用）
- (2) 耐風圧強度 \_\_\_\_\_ pa (16.12.2)
- (3) 電動式の場合の安全装置  
 障害物感知装置の設置個所 ○ 図示 ○ \_\_\_\_\_ (16.12.3)
- (4) スラットの材質 (16.12.3)  
 ○ JIS G 3312 めっき付着量 \* Z06又はF06 ○ \_\_\_\_\_  
 ○ JIS G 3322 めっき付着量 \* AZ90 ○ \_\_\_\_\_

▷ 16. オーバーヘッドドア

- (5) スラットの種類 ○ インターロッキング形  
○ オーバーラッピング形

(16. 13. 2)

セクション材 料による区分	風圧力区 分(Pa)	開閉方式によ る区分	収納形式によ る区分	ガイドレール の材料
* スチールタイプ	○ 125 ○ 100	* バランス式 ○ チェーン式	○ スタンド形 ○ ローヘッド形	溶融亜鉛 めっき鋼板 * ○ ステンレス鋼板
○ アルミニウムタイプ	○ 75 ○ 50	○ 電動式	○ ハイリフト形 ○ パーチカル形	
○ ファイバーガラス タイプ				

電動式の場合の障害物感知装置の設置箇所 ○ 図示 (16. 11. 2)

▷ 17. ガラス

(1) 板ガラス (16. 14. 2)

7. 標準仕様書の規定による品質・規格を満たす材料とする。

4. ガラスの種類及び厚さは建具表による。

(2) ガラス留め材（防火戸以外） (16. 14. 2)

該当	建具の種類	材	種
○	アルミニウム製建具	* シーリング材	○ 建築用ガasket
○	鋼製建具	* シーリング材	
○	ステンレス製建具	* シーリング材	
○	鋼製軽量建具	* シーリング材	
○	木製建具	* 押縁	
○	樹脂製建具	* 建築用ガasket	

(3) 板ガラスをはめ込む溝の大きさ (16. 14. 3) (図16. 14. 1)

\* 建具の製造所の仕様による ○

▷ 18. ガラスブロック積み

(1) 表面形状 図示 (16. 14. 5)

呼び寸法 図示

厚さ 図示

(2) 壁用金属枠、補強材 (16. 14. 5)

○ 設ける（形状 ○ 図示 ○） ○ 設けない

(3) 力骨の材質、寸法、形状： (16. 14. 5)

材質 \* ステンレス鋼(SUS304) ○

寸法 \* 径5.5mm ○

形状 \* はしご形状複筋及び単筋 ○

(4) 金属製化粧カバーの材質、寸法、形状 (16. 14. 5)

材質 ○ ステンレス製 ○ アルミニウム製

寸法 ○ 図示 ○

形状 ○ 図示 ○

(5) 化粧目地モルタル 色 \_\_\_\_\_ (16. 14. 5)

(6) シーリングの種類 \* 図示 (16. 14. 5)

(7) 建築基準法に基づく風圧力に対応した工法： (16. 14. 5)

\* 図示 ○

(8) 壁用金属枠

木下地の場合： \_\_\_\_\_ mm

(9) ガラスブロックの目地幅の寸法(mm) (16. 14. 5)

7. 平積み

\* 8~15 ○ 15~25

4. 曲面積み

\* 曲率半径をガラスブロックの幅寸法の10倍以上とし、外側15mm以下、内側6mm以上

○ \_\_\_\_\_

(10) 伸縮調整目地の位置： (16. 14. 5)

\* 幅6mm以下ごとに10~25mm ○ 図示

(11) 目地部の横力骨の納まり (16. 14. 5)  
 \* ガラスブロック製作所の仕様 ○ 図示

○ 第17章 カーテンウォール

項目	特記事項																																
▷ 1. カーテンウォールの性能	(1) 性能 (17. 1. 3) <table border="1"> <tr> <td>○ 耐風圧性</td> <td>○ S-4</td> <td>○ S-5</td> <td>○ S-6</td> </tr> <tr> <td>○ 耐火性(時間)</td> <td>○ 30分</td> <td>○ 1時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 耐震性</td> <td colspan="3">水平方向( ) 鉛直方向( )</td> </tr> <tr> <td>○ 耐温度差性(°C)</td> <td>○ 60</td> <td>○ 70</td> <td>○ 80</td> </tr> <tr> <td>* 水密性</td> <td>○ W-4</td> <td>○ W-5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 遮音性</td> <td colspan="3">○</td> </tr> <tr> <td>* 気密性</td> <td>○ A-3</td> <td>○ A-4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 断熱性 (m<sup>2</sup>h°C/kcal)</td> <td colspan="3">○</td> </tr> </table>	○ 耐風圧性	○ S-4	○ S-5	○ S-6	○ 耐火性(時間)	○ 30分	○ 1時間		○ 耐震性	水平方向( ) 鉛直方向( )			○ 耐温度差性(°C)	○ 60	○ 70	○ 80	* 水密性	○ W-4	○ W-5		○ 遮音性	○			* 気密性	○ A-3	○ A-4		○ 断熱性 (m <sup>2</sup> h°C/kcal)	○		
○ 耐風圧性	○ S-4	○ S-5	○ S-6																														
○ 耐火性(時間)	○ 30分	○ 1時間																															
○ 耐震性	水平方向( ) 鉛直方向( )																																
○ 耐温度差性(°C)	○ 60	○ 70	○ 80																														
* 水密性	○ W-4	○ W-5																															
○ 遮音性	○																																
* 気密性	○ A-3	○ A-4																															
○ 断熱性 (m <sup>2</sup> h°C/kcal)	○																																
▷ 2. メタルカーテンウォール	(1) 金属材料の種類: ○ アルミニウム製 (17. 2. 2) ○ 鋼製 ○ ステンレス製 (2) シーリング材、構造ガスケット、断熱材は図示 (3) 製品の見え掛かり部分の仕上げは図示 (4) ガラス溝の寸法、形状等はカーテンウォール製造所の仕様による (5) 主要部材、躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差は表17. 2. 2及び表17. 2. 3による																																
▷ 3. PCカーテンウォール	(1) 材料 (17. 3. 2) ア. シーリング材の種類、耐火目地材、断熱材、建具枠等は、図示 イ. コンクリートの種類 ○ 普通コンクリート ○ 軽量コンクリート ウ. コンクリートの品質 * 設計基準強度(Fc) : 30 N/mm <sup>2</sup> * スランプ : 12 cm * 鉄筋の種類 : SD295 エ. 補強鉄線の径及び網目寸法 : 図示 (2) 形状及び仕上げ (17. 3. 3) ア. 見え掛かり部の寸法許容差 : 標準仕様書 表17. 3. 1による イ. 仕上げ ○ ウ. 構造ガスケットのアンカー溝の寸法及び寸法許容差 * 図示による (3) 製作 (17. 3. 4) 鉄筋の組立 : 配筋計算書による (4) 取付け (17. 3. 5) 取付け位置の寸法許容差 : 標準仕様書 表17. 3. 2による (5) ガラスの取付け (17. 3. 6) 構造ガスケットを用いる取付 : 図示																																

○ 第18章 塗装工事

項目	特記事項
▷ 1. 材料	(1) 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 : (18. 1. 3) * F☆☆☆☆ ○ 規制対象外 (2) 防火材料 : (18. 1. 3) * 防火材料の指定は図面による ○

▷ 2. 素地ごしらえ

種別 (18.2.2~18.2.7) (表18.2.1~表18.2.7)

下地面等		種別
木部	不透明塗装塗りの場合	* A種 ○ B種
	透明塗りの場合	* B種 ○ A種
鉄鋼面	耐候性塗料塗りの場合 (DP) の場合	* B種 ○ A種 ○ C種
	上記以外の場合	* C種 ○ A種 ○ B種
亜鉛めっき鋼面		○ A種 ○ B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		* B種 ○ A種
コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面		* B種 ○ A種
コンクリート面 (DP) の場合		* A種 ○ B種
押出成形セメント板面		* B種 ○ A種
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	* A種 ○ B種
	目地：継目処理工法以外	* B種 ○ A種

▷ 3. 錆止め塗装塗り

種別 (18.3.2) (18.3.3) (表18.3.1~表18.3.4)

下地面等		錆止め塗料の種別	工程の種別	
鉄鋼面	見え係り部分	SOP	A種 * A種 ○ B種	
		DP	1回目 C種	標準仕様書 表18.3.4
			2,3回目 D種	
	EP-G	* B種 ○ A種	* A種 ○ B種	
	見え隠れ部分	SOP	A種	* B種 ○ A種
		DP	1回目 C種	標準仕様書 表18.3.4
2,3回目 D種				
EP-G	* B種 ○ A種	* B種 ○ A種		
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	SOP	* A種 ○ B種	
		DP	B種	標準仕様書 表18.3.6
			EP-G	
	鋼製建具以外	SOP	* B種 ○ A種	* B種 ○ A種
		DP	B種	標準仕様書 表18.3.6
			EP-G	

▷ 4. 塗料

種別 (18.4.1~18.12.2) (表18.4.1~表18.12.1)

塗装		種別
合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部屋外	* A種 ○ B種
	木屋内	* B種 ○ A種
	鉄鋼面	* B種 ○ A種
	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書 表18.4.3
クリアラッカー塗り (GL)		* B種 ○ A種
アクリル樹脂系非水分散型塗装塗り (NAD)		* B種 ○ A種
耐候性塗料塗りの場合 (DP)	鉄鋼面	標準仕様書 表18.7.1
	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書 表18.7.2
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	○ A種 ○ B種 ○ C種



つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)	コンクリート面、モルタル面等	* B種 ○ A種
	木部	標準仕様書 表18.8.2
	屋内の鉄鋼面	* B種 ○ A種
	亜鉛めっき鋼面	標準仕様書 表18.8.4
合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)		* B種 ○ A種
ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)		* B種 ○ A種
ステイン塗り	ピグメントステイン塗り	—
	オイルステイン塗り (OS)	—
木材保護塗料塗り (WP)	屋外	* B種 ○ A種

- 塗料の種類等 (表18.5.1)
- ・ クリアラッカー塗り (CL)  
種類がA種の場合における、標準仕様書 表18.5.1の工程2
  - ・ 塗料の種類 ( )
  - ・ 耐候性塗料塗り (DP) (表18.7.2)  
上塗り塗装の等級 鉄鋼面 ( ) 級  
亜鉛めっき鋼面 ( ) 級
  - ・ ウレタン樹脂ワニス塗り (UC) (表18.10.1)  
標準仕様書 表8.10.1の工程の着色 ○ 着色する
  - ・ オイルステイン塗り (OS) の仕様 (表18.11.2)  
\* 図示による ○

○ 第19章 内装工事

項目	特記事項			
▷ 1. ビニル床シート張り	ビニル床シート (JIS A 5705) (19.2.2)			
施工部位	種類	色柄	厚さ (mm)	工法
	* FS	○ マーブル	* 2.0	○ 突付け
	○	○ フレーン	○	* 熱溶接
	○	○ マーブル	* 2.0	○ 突付け
		○ フレーン	○	* 熱溶接
	○	○ マーブル	* 2.0	○ 突付け
		○ フレーン	○	* 熱溶接
▷ 2. ビニル床タイル張り	ビニル床タイル (JIS A 5705) (19.2.2)			
施工部位	種類	色柄	寸法	厚さ (mm)
	* KT	○ マーブル		○ 2.5
	○	○ フレーン		* 2.0
	* KT	○ マーブル		○ 2.5
	○	○ フレーン		* 2.0
	* KT	○ マーブル		○ 2.5
	○	○ フレーン		* 2.0
▷ 3. 特殊機能床材	(1) 帯電防止床シート、帯電防止床タイル (19.2.2)			
施工部位	種類	性能	厚さ等 (mm)	
	帯電防止床シート	体積抵抗値 ( ) Ω 以下		
	帯電防止床タイル			

(2) 視覚障害者用床タイル (19. 2. 2)

区分	施工部位	種類	寸法 (mm)
屋外		<input type="radio"/> 塩化ビニル系	<input type="radio"/> 300×300
		<input type="radio"/> レジンコンクリート系	<input type="radio"/>
		<input type="radio"/> 磁器質タイル	
屋内		<input type="radio"/> 塩化ビニル系	<input type="radio"/> 300×300
		<input type="radio"/> 磁器質タイル	<input type="radio"/>

※ 色は周囲の床材と識別しやすいものとする。

(3) 耐動荷重性床シート (19. 2. 2)

施工部位	種類	厚さ (mm)	備考

(4) 防滑性床シート、防滑性床タイル (19. 2. 2)

施工部位	種類	厚さ (mm)

(5) ビニル幅木 : (19. 2. 2)

厚さ (mm) \* 1.5以上  \_\_\_\_\_  
 高さ (mm) \* 60  \_\_\_\_\_

(6) ゴム床タイル : (19. 2. 2)

種類  \_\_\_\_\_ 色柄  \_\_\_\_\_  
 厚さ (mm)  \_\_\_\_\_ 寸法  \_\_\_\_\_

(7) 接着剤 : (19. 2. 2) (表19. 2. 1)

ホルムアルデヒド放散量 \* F☆☆☆☆  規制対象外  
 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の  
 接着剤の種類と施工箇所

種別  \_\_\_\_\_  
 施工箇所  \_\_\_\_\_

(8) ゴム床タイル用接着剤 : (19. 2. 2) (表9. 2. 2)

ホルムアルデヒド放散量 \* F☆☆☆☆  規制対象外  
 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の  
 接着剤の種類と施工箇所

種別  \_\_\_\_\_  
 施工箇所  \_\_\_\_\_

▷ 4. 工法

(1) 標準仕様書19. 2. 3以外の下地工法 (19. 2. 3)

図示

▷ 5. カーペット敷き

(1) 織じゅうたん (19. 3. 2) (表19. 3. 1) (表19. 3. 2)

該当	種別	織り方	パイルの形状	帯電性
<input type="radio"/>	<input type="radio"/> A種 <input type="radio"/> B種 * <input type="radio"/> C種	<input type="radio"/> ウルトン <input type="radio"/> ダブルフェース <input type="radio"/> アキスインスター	<input type="radio"/> ループ <input type="radio"/> カット <input type="radio"/> 併用	<input type="radio"/> 適用する (性能 : * 人体帯電圧 3kv以下 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 適用しない

(2) タフテッドカーペット (19. 3. 2) (表19. 3. 2)

該当	パイルの形状	パイル長	帯電性	工法
<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ループ <input type="radio"/> カット <input type="radio"/> 併用		<input type="radio"/> 適用する (性能 : * 人体耐電圧 3kV以下 <input type="radio"/> <input type="radio"/> 適用しない	<input type="radio"/> グリップパー * 全面接着

(3) タイルカーペット (19.3.2) (表19.3.2)

該当	種類	パイルの形状	寸法	総厚さ
○	* 第一種	* ループ	* 500mm角	* 6.5mm
	○ 第二種	○ カット	○	○
		○ 併用		

(4) 下敷き材 : \* 第2種2号 ○ \_\_\_\_\_ (19.3.2)  
 \* 呼び厚さ8mm ○ \_\_\_\_\_

(5) 見切り、押さえ金物の材質、種類、形状 : 図示 (19.3.2)

(6) 接着剤 : (19.3.2)

ホルムアルデヒド放散量 \* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(7) 織りじゅうたんの接合方法 (19.3.3)

\* ヒートボンド工法 ○ \_\_\_\_\_

(8) タイルカーペット全面接着工法の敷き方 : (19.3.3)

平場 \* 市松敷き ○ 模様流し ○ \_\_\_\_\_

階段部分 \* 模様流し ○ 市松敷き ○ \_\_\_\_\_

▷ 6. 合成樹脂塗床

(1) 厚膜型塗床材(弾性ウレタン樹脂系塗床材) (19.4.3) (表19.4.4)

施工部位	区分	仕上げの種類	厚さ
	* 水系	* 平滑	
	○ 無溶剤系	○ 防滑	
	○ 溶剤系	○ つや消し	
	* 水系	* 平滑	
	○ 無溶剤系	○ 防滑	
	○ 溶剤系	○ つや消	

(2) ホルムアルデヒド放散量 : (19.4.2)

\* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(3) 厚膜型塗床材(エポキシ樹脂系塗床材) (19.4.3) (表19.4.5~7)

施工部位	区分	工法	仕上げの種類	厚さ
	* 水系	○ 薄膜流しのべ	○ 平滑	
	○ 無溶剤系	○ 厚膜流しのべ	○ 防滑	
	○ 溶剤系	○ 樹脂珪砂		
	* 水系	○ 薄膜流しのべ	○ 平滑	
	○ 無溶剤系	○ 厚膜流しのべ	○ 防滑	
	○ 溶剤系	○ 樹脂珪砂		

(4) ホルムアルデヒド放散量 : (19.4.2)

\* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(5) 薄膜型塗床材(エポキシ樹脂塗床材) (19.4.3) (表19.4.8)

施工部位	区分	工法	仕上げの種類	厚さ
			* 平滑	

(6) 薄膜型塗床材のホルムアルデヒド放散量 : (19.4.2)

\* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

▷ 7. フローリング張り

(1) ○ 適用しない (19.5.5)

○ 適用する

○ フローリングボード(直張用) (表19.5.5)

樹種 : \* なら ○ \_\_\_\_\_

○ 複合フローリング(直張用) (表19.5.6)

種別 : ○ A種 ○ B種 ○ C種

樹種 : \* なら ○ さくら ○ ひのき、まつ

○ フローリングブロック

樹種 : \_\_\_\_\_

厚さ : \_\_\_\_\_

幅 : \_\_\_\_\_

長さ : \_\_\_\_\_

(2) フローリング裏面の不陸緩和材 (19.5.5)

\* 合成樹脂発泡シート

○

(3) 特殊フローリング

品名	表面材の材種	仕上げ塗装
○ 屋内体育館アリーナ床 (JIS A 6519)	* なら ○	
○ 柔剣道場の床 (JIS A 6519)	* なら ○	

(4) フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 (19.5.2)

\* F☆☆☆☆・接着剤等不使用 ○

(5) 接着工法におけるフローリング裏面の緩衝材： (19.5.5)

\* 合成樹脂発泡シート ○

フローリングブロック

樹種	厚さ	大きさ	適用

▷ 8. 畳敷き

(1) 普通畳の種別 (19.6.2) (表19.6.1)

○ A種 ○ B種 ○ C種 \* D種

D種の場合の畳床 ○ KT-I ○ KT-II \* KT-III

○ KT-K ○ KT-N

(2) 柔道畳

畳床は、JIS A 5901 (畳床) の2級品とし、畳表は、柔道用レザー表地 (裏地ビニロン使用) とする。

▷ 9. せっこうボード及びその他のボード及び合板張り

(1) せっこうボード及びその他のボードの種類、厚さ等

\* 図示 ○

7. ホルムアルデヒド放散量：

\* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(2) せっこうボードの目地工法： \* 突付け工法 (19.7.3)

○ 継目処理工法

○ 目透し工法

▷ 10. 合板張り

(1) 普通合板は、「合板の日本農林規格」の規格品で、板面の品質は1・2等込みとし、難燃合板及び特殊合板は、それぞれ「難燃合板の日本農林規格」及び「特殊合板の日本農林規格」の規格品とする。

(2) 19.7.2(1)にかかわらず、防火材料の認定品の使用は指定のあったときとする。

(3) 下地の種類：図示

(19.7.3)

(4) 普通合板の種類等

(19.7.2)

表板の樹種	板面の品質	処理	厚さ (mm)
生地、透明塗料塗り * ラワン程度 ○	○	○ 防虫処理	○
不透明塗料塗り * しな程度 ○			

(5) 天然木化粧合板の規格

(19.7.2)

化粧板の樹種	処理	厚さ (mm)
○	○ 防虫処理	○

## (6) 特殊加工化粧合板の規格

(19.7.2)

化粧加工の方法	表面性能	処理	厚さ (mm)
○ オーバーレイ ○ プリント ○ 塗装等	○	○ 防虫処理	○

(7) 合板類、MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量： (19.7.2)

\* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(8) 合板の張付けの種類別： \* B種 ○ A種 (表19.7.3)

(1) 材料 (19.8.2)

7. 壁紙の種類等：

施工部位	防火種別	種類
	* 1 - 1 ○ -	○ 紙・布 ○ ビニールクロス
	* 1 - 1 ○ -	○ 紙・布 ○ ビニールクロス

個別認定の一例

防火種別	不燃下地	不燃石膏ボード	準不燃下地	金属下地
1-1	不燃	不燃	準不燃	準不燃
1-2	不燃	準不燃	準不燃	難燃
1-3	不燃	準不燃	準不燃	
2-1	準不燃	準不燃	準不燃	準不燃
2-2	準不燃	準不燃	準不燃	難燃
2-3	準不燃	準不燃	準不燃	

防火種別 左の数字は、旧通則認定における検定級に基づく区分

イ. 壁紙のホルムアルデヒド放散量 (19.8.2)

\* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

ウ. 素地ごしらえの種類 (19.8.3)

モルタル・せっこうプラスター面 \* B種 ○ A種

コンクリート・ALC面 \* B種 ○ A種

せっこうボード面 \* B種 ○ A種

(1) 共通事項 ノンフロン仕様とする。 (19.9.2)

(2) 硬質ウレタンフォーム保温板他

施工部位	材 料 の 種 別	材料の類別及び品質
基礎断熱 土間下敷込	* (JIS A 9521) ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 (EPS)	* 1号
	○ (JIS A 9521) 押出法ポリスチレンフォーム保温板 (XPS)	○ 3種 b (表皮付き)
	○	○
屋根外断熱	* (JIS A 9521) 押出法ポリスチレンフォーム保温板 (XPS) ○	* 3種 b (表皮付き)

▷ 11. 壁紙張り

▷ 12. 断熱・防露

外壁・天井	* (JIS A 9521) ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 (EPS)	○ 種
	○ (JIS A 9521) 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (XPS)	○ 種 号
	○ (JIS A 9521) 硬質ウレタンフォーム断熱材 (PUF)	
	○ (JIS A 9521) フェノールフォーム断熱材 (PF)	
	○	○

☆ フェノールフォーム断熱材及び張付用断熱材の接着剤  
ホルムアルデヒド放散量： \* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

※ 施工部位及び部位毎の厚さについては図面による。図面特記がない場合の各部位の厚さは、押出法ポリスチレンフォーム保温板2種bで下表の数値以上とし、他のものは、これと同等以上の断熱効果（熱伝導率0.034以下）を有する厚さとする。

地 区	道南・道央	道北・道東	施 工 範 囲
外気に接する床	* 50 ○	* 50 ○	
外気に接しない床	* 30 ○	* 30 ○	
外 壁 面	* 30 ○	* 40 ○	
最上階スラブ下端	* 40 ○	* 50 ○	

- (3) 吹付硬質ウレタンフォーム
7. 外壁面の開口周辺部には、開口部枠材と外壁面保温板の隙間にウレタンフォームを吹付け、その厚さは、外壁面保温板と同等以上の断熱性能を有するものとする。
  - イ. 外壁面のフォームタイの露出部分には、結露防止のためウレタンフォームを吹付ける。
  - ウ. 板状断熱材を打込んだ場合で、断熱材の継目にコンクリート「のろ」が流出したり、隙間が生じた場合は、Vカットのうえ発泡ウレタン処理をする。
- (4) グラスウール断熱材は、JIS A 9521（建築用断熱材）の規格品とする。  
密度 \* 高性能16Kg/m<sup>3</sup> ○ \_\_\_\_\_ Kg/m<sup>3</sup>
- (5) ロックウール保温材は、JIS A 9504（ロックウール保温材）またはJIS A9521（建築用断熱材）の規格品とし、密度は、保温板80Kg/m<sup>3</sup>フェルト及びマット 40Kg/m<sup>3</sup>とする。
- (6) ブローイング工法は、JIS A 9523（吹込み用グラスウール断熱材）JIS A 9524（吹込み用ロックウール断熱材）又は JIS A 9525（吹込み用セルロースファイバー断熱材）による。

○ 第20章 ユニット及びその他工事

項目 特記事項

▷ 1. フリーアクセスフロア (1) 仕様 (20. 2. 2)

施工箇所	寸法	高さ	耐震性能	所定荷重	帯電防止性能	漏えい抵抗
	○ 500×500		○ 1.0G ○ 0.6G	○ 3,000N ○ 5,000N	○ U値(クラス1) ○ U値(クラス2)	○ R <sub>≧</sub> 1×10Ω6 ○
	○ 500×500		○ 1.0G ○ 0.6G	○ 3,000N ○ 5,000N	○ U値(クラス1) ○ U値(クラス2)	○ R <sub>≧</sub> 1×10Ω6 ○

(2) 性能 (20. 2. 2)

\* 標準仕様書20. 2. 2による ○ 図示

(3) 寸法精度 (20. 2. 2)

\* 標準仕様書20. 2. 2による ○ 図示

▷ 2. 可動間仕切 (1) 仕様 (20. 2. 3)

構造形式	表面材質	パネル表面仕上げ	遮音性能	不燃材料の認定
○ スタッド式 (内蔵) ○ スタッド式 (露出) ○ パネル式 ○ スタッドパネル式	○ 鋼板	○ メラミン樹脂塗料又は アクリル樹脂塗料焼付  ○	○ 0 ○ 12 ○ 20 ○ 28 ○ 36	○ あり ○ なし

(2) ホルムアルデヒド放散量 \* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(3) パネル内に取り付ける建具 (20. 2. 3)

○ あり (図示) ○ なし

▷ 3. 移動間仕切 (1) 仕様 (20. 2. 4)

走行方法	操作方法	パネル圧接装置	遮音性	表面仕上げ
○ 平行方向 ○ 二方向	○ 手動式 ○ 電動式 ○ 部分電動式	○ プッシュ式 ○ ハンドル回転式	○ 一般タイプ (36db未満) ○ 遮音タイプ (36db以上)	○ 焼付塗装

(2) 取付部品・ハンガーレール・ランナーの取付け下地の補強:

\* 取付全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。

○ \_\_\_\_\_ (20. 2. 4)

あと施工アンカー類を使用する場合の材質、寸法等

\* 図示 ○ \_\_\_\_\_ (20. 2. 5)

▷ 4. トイレブース (1) 表面材 ○ メラミン樹脂系 ○ ポリエステル樹脂系 (20. 2. 5)

(2) 脚部

形状 \* 幅木タイプ ○ \_\_\_\_\_

材質 \* ステンレス製 ○ \_\_\_\_\_

(3) ホルムアルデヒド放散量 \* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

▷ 5. 手すり (1) 材種 ○ ステンレス製SUS304 (20. 2. 6)

○ アルミニウム合金製

○ 鋼製

(2) 仕上げ ○ \_\_\_\_\_ (20. 2. 7)

▷ 6. 階段滑り止め (1) 材種 \* ステンレス製 (20. 2. 7)

(2) 取付け工法 ○ 埋込み工法 \* 接着工法

(3) 巾 ○ 30mm ○ 35mm ○ 40mm

(外部) \_\_\_\_\_ (内部) \* ステンレス製及び黄銅製のはビニル材入りとする。

▷ 7. 黒板及びホワイトボード

(1) 黒板

区分	種類	色	形式
* 焼付け	○ 鋼製黒板	* 緑	○ 平面
○	○ ほうろう黒板	○	○ 曲面

※アルミニウム枠、チョーク溝、チョーク入れ、チョーク粉入れ付き

標準仕様書20.2.9によるほか、優良道産品認定品も可とする。

(2) ホワイトボード

区分	種類	色	形式
*	* ほうろう	* 白	○ 平面
○		○	○ 曲面

標準仕様書20.2.9によるほか、優良道産品認定品も可とする。

▷ 8. 鏡

(1) 施工箇所 \* 図示 ○ \_\_\_\_\_ (20.2.10)

▷ 9. 表示

(2) 厚さ \* 5mm ○ \_\_\_\_\_ (20.2.11)

- (1) ○ 衝突防止表示 ( \* 図示 ○ \_\_\_\_\_ )
- (2) ○ 法令に基づく表示 ( \* 図示 ○ \_\_\_\_\_ )
- (3) ○ 室名札 ( \* 図示 ○ \_\_\_\_\_ )
- (4) ○ ピクトグラフ ( \* 図示 ○ \_\_\_\_\_ )
- (5) ○ 案内板 ( \* 図示 ○ \_\_\_\_\_ )

▷ 10. タラップ

(1) 材料の種類及び仕上げ (20.2.12)

- \* ステンレス製SUS304 ( \* 研磨等不要 ○ 研磨等 )
- アルミニウム合金製 ( \* 研磨等不要 ○ 研磨等 )
- 鋼製 ( \* 研磨等不要 ○ 研磨等 )

▷ 11. 煙突ライニング

(1) ○ 煙突用成型ライニング材 (20.2.13)

適用安全使用温度： ○ \_\_\_\_\_ °C

(2) 工法 ( \_\_\_\_\_ )

▷ 12. ブラインド

(1) ブラインドの形式 ○ 横形 ○ 縦形 (20.2.14)

(2) 種類及び開閉方式等 \* 図示

▷ 13. ロールスクリーン

(1) 操作方法 ○ スプリング式 (20.2.15)

○ コード式(チェーン式) ○ 電動式

(2) 幅及び高さ \* 図示

(3) 防災性能等の材質や品質等 \* 図示

(4) 巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料

\* 製造所の仕様による ○ \_\_\_\_\_

▷ 14. カーテン及びカーテンレール

(1) カーテンのシングル・ダブルの別、引き分け等の形式、(20.2.16)  
開閉操作方式：図示による

(2) カーテン用生地等 \* 図示

(3) カーテンレール (20.2.16)

\* アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材

▷ 15. 肢体不自由者用手すり(既製)

(1) 材種 \* ステンレス製 ○ \_\_\_\_\_

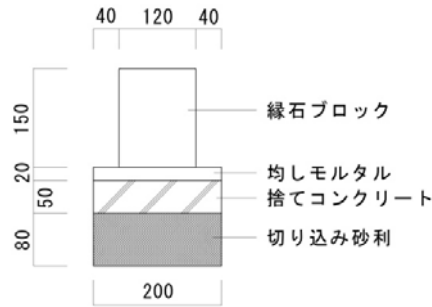
(2) 表面仕上 \* 塩化ビニル樹脂又はナイロン樹脂 ○ HL仕上



▷ 16. 建物周囲砂利敷き及び軒下縁石

- (1) 建物周囲の砂利敷きはB種とする。  
 (2) 軒下縁石の寸法及び断面は設計図面による。図面特記がなければ、コンクリートブロックの寸法120×150×600mmとし、基礎断面は下図による。

(21. 3. 1)



▷ 17. 点検口

施工部位	種	寸法 (mm)	鍵
天井	<input type="radio"/> アルミニウム製	<input type="radio"/> 450×450	<input type="radio"/> あり
	<input type="radio"/> 木製	<input type="radio"/> 600×600	<input type="radio"/> なし
床下	<input type="radio"/> アルミニウム製	<input type="radio"/> 450×450	<input type="radio"/> あり
	<input type="radio"/> 木製	<input type="radio"/> 600×600	<input type="radio"/> なし
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> 450×450	<input type="radio"/> あり
		<input type="radio"/> 600×600	<input type="radio"/> なし

※ 床下点検口は裏面ウレタン発泡とする。

▷ 18. 屋上緑化

- (1) 植栽基盤： (23. 5. 2)

屋上緑化システム       屋上緑化軽量システム

- (2) その他必要な事項は、図面による。図面に指示が無い場合は、システム製作所の仕様による。

図面図示の箇所に ( \* 設置       記入 )

室内 \* プラスチック製 寸法φ150

床下 \* 鋳鉄製 寸法160×375

樹脂製

BL規格品       6戸用       \_\_\_\_\_戸用

次のそれぞれの工事終了後、家屋の調査を行うこと。

杭工事       土工事       躯体工事

・ 調査は「補償コンサルタント登録規定（昭和59年9月21日建設省告示第1341号）」による事業損失部門に登録している業者に調査させること。

・ 調査箇所は、当該敷地に隣接する敷地の家屋とする。

調査戸数 \_\_\_\_\_戸

・ 調査内容は、工事監督員と協議すること。

▷ 19. 棟番号

▷ 20. 換気口

▷ 21. 連絡板

▷ 22. 家屋段階調査

○ 第21章      その他

項目

特記事項

▷ 1. 概数等発注

- (1) 次に示した数量は概数であり、必要に応じて設計変更するものとする。

なお、設計に対して過大な出来高数量に変更するものではないことに留意すること。

- (2) この工事においては、設計変更図書の作成（設計変更図面の作成及び工事数量の算出）を受注者に行わせることがある。

(3) 概数として取り扱っている事項の施工に当たっては、施工前に工事監督員と協議すること。

なお、数量の確認ができない場合を除き、施工前に数量を確定すること。

(4) 概数として示した仮設工の工事数量は、標準的な工法により算出したものであるため、取り合い等によって新たに必要となる項目についても概数として取り扱うことがある。

(5) 概数

7. 工事数量総括表細目別内訳の備考欄に「概数」又は「概」と表示された項目・数量

1. 次の項目・数量

区 分	設計数量 (単位)		確定数量 (単位)	
	積込・運搬量	処分量	積込・運搬量	処分量